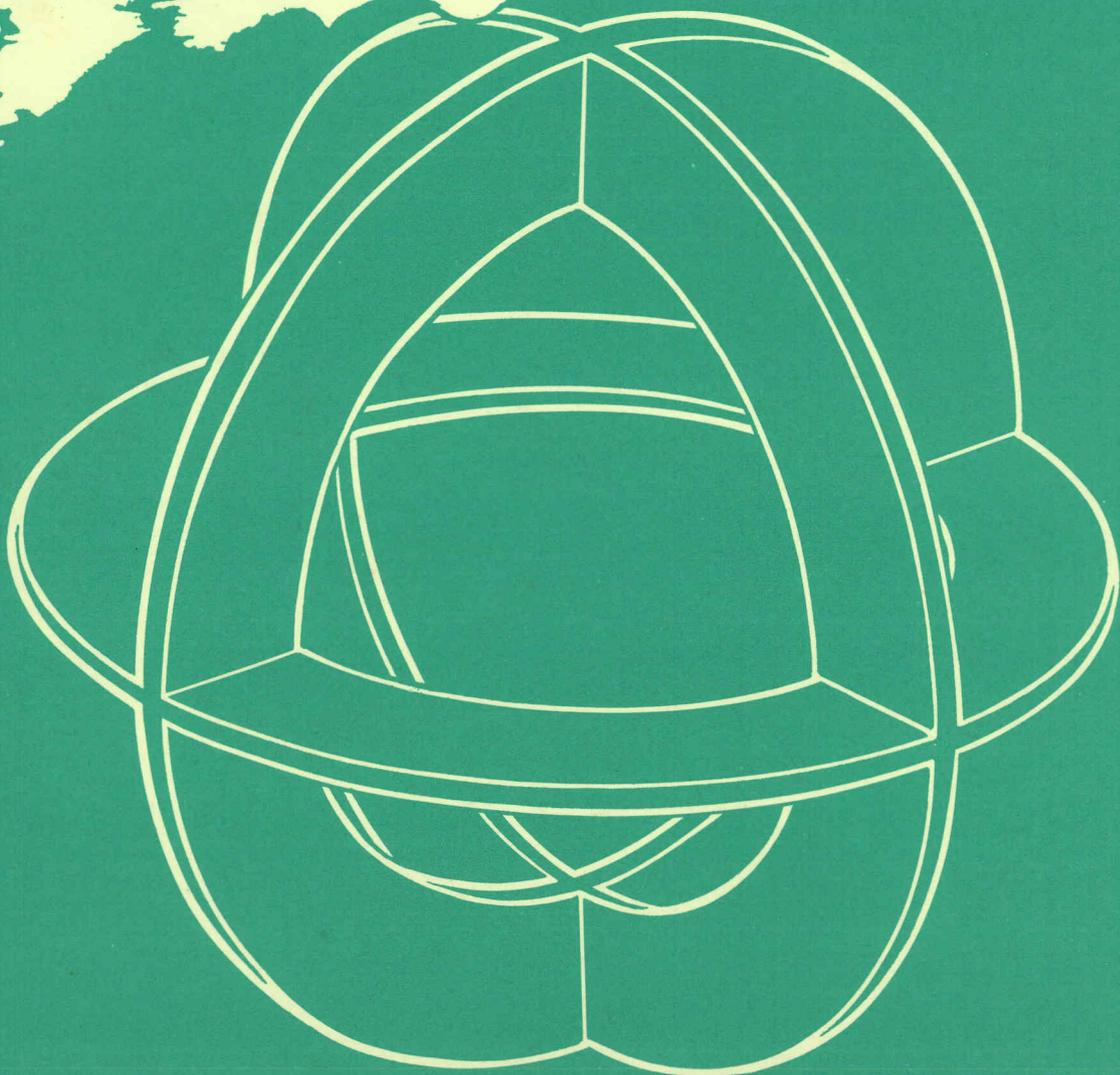


ヒューマンネットワーク高専

# 赤とんぼ

1997.9 vol. 2

高専出身のOB・OGの躍進をめざして





# 設立趣意書

高専を最初に卒業した人たちが社会に出てから30年が経とうとしています。

この30年の間に技術の世界は、少年期から大人への時代へと大きく変化を致しました。私たちは時代と共に成長を致し、この間に安定した技術を身につけ、大勢の後輩に恵まれながら、いま高専創立の目的であった中堅技術者として、会社内でも一応の地位を確保するところまで来ました。そうして、私たちは毎日愛する人たちのために豊かな社会を目指し、美しい地球を守る技術者として誇りを持って頑張っています。

これは、一人ひとりが今日まで努力を積み重ねてきた賜であり、また同時に、この学ぶ礎を身に付けさせてくれた高専教育の成果でもあります。

一方、わが国はバブル経済の崩壊や産業の空洞化の問題を抱え、進むべき道を見いだせないまま足踏みをしています。政治、経済、教育いずれの分野の人たちも、本当の大人の時代の扉を押せずに困惑しているようです。また私たちも技術者をはなれてみたときには、社会の一員としての十分な知識や、行動力、人脈に豊かなものを持ってないままにいます。こうした様々な問題が現在の私たちをとりまいており、その一つひとつに選択を迫られている時期と言えましょう。

そうした問題に対峙するには、個人の力の及ぶところではありません。私たちはエンジニアも人であり続けるために連帯が欲しいと考えます。

現在高専は全国に62校設置され、どなたの近くにもその門戸は開かれていますし、高専の門をくぐった者は30万名を数え、全国津々浦々あらゆる企業の第一線で活躍しています。この前線の人たちが、同じ青春を過ごし

た「高専に学んだ」というキーワードで、ひとつにつながれば素晴らしいと考えました。

15才から20才までの多感な時期を共有した高専のOB・OG達が、各々の出身校の枠をはずして、全国がひとつの高専ということで集合し、各地で産・学の創造研究に携わったり、地域における第一線の技術者による研修交流や経済交流をはかり、それぞれをネットワークでつなぎ、全国規模の活動にすることにより、大きな新しい力を生み出せると確信します。

また、この活動をとおして私たちや高専を社会にもっとアピールして、技術を志す若者に光明の指針を与えることができれば、高専の発展にも貢献でき、人の輪は厚くより強い力となり得るでしょう。

私たちは、心でつながった技術の21世紀を迎える準備として、1996年10月5日に全国各地から集まり、ヒューマンネットワーク高専を設立しました。

この会は全国の高専出身者によって自主的に運営され、まずはじめに地域毎の集まりを日常普段のつき合いの中から育て、さらに研修会、懇親会等を各地で計画し、それぞれをパソコンネットワークでつなぎ、相互に連携を持ちながら、高専を交えた中地域、全国規模の研究発表会、交流会等を通して人の輪を広げていくことにより、孤立した技術者からグローバルの意識を持った技術者集団への脱皮を計ろうというものです。

皆さまの入会を歓迎いたします。一緒に高専技術文化の花を咲かせましょう。

# 入会申込用紙

登録 年 月 日

コードNo		高専	期	工学科	写 真
氏名		刀册			
現住所					
電話		FAX			
個人情報	資格				
	経歴				
	特技				
	趣味				
	その他				
勤務先					
所在地					
所属					
役職					
電話		直通電話			
FAX		携帯・自動車電話			
会社概要・他	業種				
	業務概要				
	その他				
会又は会員にメッセージが有りましたらご記入下さい。					

記入が済みましたら下記へFAXして下さい。

『ヒューマン・ネットワーク高専』事務局  
**FAX 0268-42-6850**

〒386-04 長野県小県郡丸子町腰越2737-286  
 宮下和美 TEL 0268-42-5620

会員の種類	正会員 協賛会員	特別会員 同窓会	名誉会員 非会員
フリガナ 氏 名			
住 所	〒	電話	FAX E-mail
勤 務 先		電話	FAX E-mail
原稿 タイトル			
意見・原稿の別	写真・図表の数		
意見・求職「赤とんぼ」へ掲載の有無			
資料請求の部数			

申込書送付先

〒386-04 長野県小県郡丸子町腰越2737-286

ヒューマンネットワーク高専 事務局 宮下 和美

TEL 0268-42-5620 FAX 0268-42-6850

E-mail : kuiin@avisnet.or.jp

GHA07306@niftyserve.or.jp

ヒューマンネットワーク高専のホームページ

goo「ゲー」 YAHOO「ヤフー」の検索キーワードは

[HNK]「ヒューマンネットワーク(高専)」です。

近日サーバのアドレスが変わります。

検索して下さい。

# ヒューマンネットワーク高専 会則

## 第1章 総 則

(名称)

第1条 この団体は、ヒューマンネットワーク高専 本会則では以下「本会」という。

(事務所)

第2条 本会は、事務所を長野県小県郡丸子町大字腰越2737番地286に置く。

(目的)

第3条 本会は、会員相互の交流に努めると共に、科学技術及び社会の発展への貢献を行って、文化の向上及び高専制度の発展に資することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 科学技術及び社会の発展に寄与する共同事業の場や情報の提供。
- (2) 全国高専同窓会の活性化のための活動
- (3) 講習会、研修会、講演会の開催。
- (4) 機関紙の発行及び資料の刊行。
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な事業。

(グループ支部)

第5条 本会は、幹事会の決議により、必要の他にグループ支部を置くことができる。

## 第2章 会 員

(種別)

第6条 本会の会員は次の5種とする。(継続審議)

- (1) 正会員 高専に在籍した者。
- (2) 特別会員 科学技術、経済又は地域の発展事業に関係ある個人又は団体(各校の同窓会を含む)で正会員2名以上の紹介により入会した者。
- (3) 賛助会員 高専の文部教官、文部事務官、文部技官その他特に幹事会で認めた者。
- (4) 名誉会員 科学技術、経済又は地域の発展事業に関し、功績のあった者で幹事会が推薦し総会で承認された者。
- (5) 協賛会員 本会の事業に協賛する企業と団体。

(入会)

第7条 本会の正会員又は特別会員として入会しようとする者は、入会申込書を事務局に提出しなければならない。

2. 正会員の入会は、入会申込書提出と同時に所定の入会金及び会費を納入しなければならない。

(退会)

第8条 会員は、事務局に届けて、退会することができる。

2. 会員が次の各号の1に該当するときは、総会の決議により除名することができる。

- (1) 会則又は総会の決議に違反したとき。
- (2) 本会の名誉を傷つけ、又は秩序をみだしたとき。
- (3) 2年以上会費を滞納した者

(入会金及び会費)

第9条 本会の正会員として入会しようとする者は入会金10,000円を納入しなければならない。

2. 正会員は、会費年額6,000円を納入しなければならない。
3. 本会の特別会員は、会費年額一口30,000円を納入しなければならない。(継続審議)
4. 既納の入会金及び会費は、返還しない。

### 第3章 役員 及び 職員

(役員)

第10条 本会に、次の役員を置く。

幹事 5名以上 35名以内 監査 5名以内

2. 幹事のうち、数名を代表幹事とする。

(代表幹事)

第11条 代表幹事は、本会を代表し、会務を統理する。

2. 代表幹事は、相互に補佐し代表幹事の職務を行う。
3. 代表幹事の選任は、幹事会において定める。

(幹事)

第12条 幹事は、幹事会を構成して、会務を議決し執行する。

2. 幹事は、正会員のうちから総会において選任する。

(監査)

第13条 監査は、民法第59条に定める職務を行う。

2. 前条第2項の規定は、監査を選任する場合において準用する。

(兼務の禁止)

第14条 幹事、監査は、これを相互に兼ねることができない。

(役員の任期等)

第15条 役員任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2. 補欠による役員任期は、前任者の残任期間とする。
3. 役員は、辞任又は任期満了の場合においても、後任者が就任するまでは、引き続きその職務を行わなければならない。

(解任)

第16条 役員が、役員としてふさわしくない行為をしたときは、総会の議決により、これを解任することができる。

(役員の変動等)

第17条 役員が就任し、離任し、死亡し、その他の変動があったときはその旨を全会員に通知しなければならない。

(事務局)

第18条 本会の事務を処理するため、事務局を置く。

2. 事務局には、職員若干名を置くことができる。
3. 事務局の職員は、幹事会の決議により任免する。
4. 事務局長は正会員の中から選任し、幹事とする。

## 第4章 会 議

(総会)

第19条 総会は、正会員をもって構成する。

2. 総会は、定時総会及び臨時総会の2種類とする。
3. 総会の定足数は、正会員総数の10分の1とする。

(総会の招集)

第20条 定時総会は、毎年1回定時に、幹事会の決議を経て代表幹事が招集する。

2. 臨時総会は、幹事会が必要と認めたとき、代表幹事が招集する。
3. 正会員総数の5分の1以上にあたる者もしくは監査が会議の目的たる事項を示して総会の招集を請求したときは、代表幹事は1ヶ月以内に総会を招集しなければならない。
4. 総会を招集するには、期日より5日前までに書面をもって正会員にその旨を通知しなければならない。
5. 前項の通知には、会議の目的たる事項を記載しなければならない。

(総会の議長、副議長)

第21条 総会の議長及び副議長は、その総会において出席した正会員のうちから選任する。

2. 議長は、総会の秩序を保持し、議事を整理する。議長に事故があるときには、副議長がその職務を行う。

(総会の権能)

第22条 総会においては、別に定めるもののほか、次に掲げる事項について議決する。

- (1) 予算及び決算の承認に関する事項。
- (2) 毎年の事業計画の大綱に関する事項。
- (3) 会則の改正に関する重要な事項。
- (4) その他本会の運営に関する重要な事項。

(総会における議決)

第23条 会員の議決権は、正会員において各1個とする。

2. 総会における議決は、この会則に別段の定めがある場合を除き、出席した正会員の議決権の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理表決)

第24条 総会に出席することのできない正会員は、他の出席者に表決を委任することができる。

この場合において当該委任者は、前条第2項の適用については総会に出席したものとみなす。

(幹事会)

第25条 幹事会は、幹事をもって構成する。

(幹事会の招集)

第26条 幹事会は、必要に応じて代表幹事が招集する。

(幹事会の議長、議決)

第27条 幹事会の議長は、代表幹事をもってこれにあてる。

2. 幹事会は、幹事現在数の3分の2以上出席しなければ、議事を開き議決することはできない。

3. 第23条並びに第24条の規定は、幹事会における議決をする場合に準用する。

(幹事会の機能)

第28条 幹事会は、別に定めるもののほか、次に掲げる事項について議決する。

- (1) 総会の議決した事項の執行に関する事項。
- (2) 総会に付議すべき事項。
- (3) その他会務の執行に関する事項。

(総会及び幹事会の議事録)

第29条 総会及び幹事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 開会の日時及び場所。
- (2) 会員又は幹事の現在数。
- (3) 出席者の数。
- (4) 議事の経過の要領。

- (5) 議決事項。
  - (6) 議事録署名人の選任に関する事項。
2. 議事録には、議長のほか、出席者のうちから、その会議において選出された議事録署名人2名以上が署名捺印しなければならない。

## 第5章 資産 及び 会計

(資産の構成)

第30条 本会の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 会費
- (2) 入会金
- (3) 寄付金品
- (4) その他の収支

(決算)

第31条 本会の収支決算は、代表幹事が作成し事業報告書及び会員の異動状況書とともに監査の意見をつけ、年度終了後3ヶ月以内に幹事会及び総会の承認を受けなければならない。

(事業計画)

第32条 本会の事業計画及びこれに伴う収支予算は、年度開始前に代表幹事が作成し、幹事会の議決を経て、総会の承認を得なければならない。

(会計年度)

第33条 本会の会計年度は、毎年5月1日に始まり、翌年4月31日に終わる。

## 第6章 会則の変更 及び 解散

(会則の変更)

第34条 この会則は、総会において出席正会員の4分の3以上の同意を得なければ、変更することができない。

(解散及び残余財産の処分)

第35条 本会の解散は、総会において正会員総数の4分の3以上の同意を得なければならない。

2. 本会の解散に伴う残余財産は、総会において正会員総数の4分の3以上の同意を得て、本会の目的に類似の目的を有する公益事業に寄付するものとする。

## 第7章 補 則

(委任規定)

第36条 この会則の定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は幹事会が定める。

付 則

1. この会則は、平成9年7月1日から実施する。

# 目 次

巻頭言	ヒューマンネットワーク高専船出の時を迎えて	田玉 治實	1
追 悼	山崎 元さんを偲んで	田玉 治實	2
	ヒューマンネットワーク高専代表幹事就任にあたって	藤嶋 俊哉	3
特 集			
	第1回定時総会報告		7
1. 講演	技術者の未来とヒューマンネットワーク高専	白倉 英一	9
2. 総会議事録			13
3. 運営討議			21
感想文		井崎淳一郎	53
		藤嶋 俊哉	54
		中本 純次	55
		渡部 正義	55
		尾上 良明	56
		成岡 峯男	58
寄 稿	高専卒業生から見た高専制度	石山 彰雄	59

## 編集後記

# ヒューマンネットワーク高専の 船出の時を迎えて

ヒューマンネットワーク高専代表幹事  
長野工業高等専門学校 機械工学科1期卒 田玉治實



昨年10月の設立総会、本年6月の第1回定時総会を経てヒューマンネットワーク高専が本格的に動き出しました。

代表幹事を先頭に役員の方々の献身的な努力により、東京事務所の開設を契機に、インターネットの専用サーバーの設置、ドメイン名の取得、協賛企業の獲得等、事業展開のベースの構築が進んでいます。

また、この活動の原点である、より多くの仲間の集合を目指して、各校同窓会との連携・交流も第1回定時総会に代表が出席されたところを中心に始まっています。

私たちは、第1回定時総会に提示された事業計画を、より具体的に展開し、ヒューマンネットワーク高専に参加することの意義を、大きくアピールする必要があります。

それには、各個人がそれぞれの目的を持って、また各同窓会が全国連合体の構想等を持って集まれる様、それぞれの意見の交流の場をより多く提供して、意見の集約の中から活動指針を見いだして行くべき、民主的な組織を1日も早く作り上げなければなりません。

ハードの部分は整いつつあります。会員各位にはヒューマンネットワーク高専の草創のときにあたり、皆さんのお持ちの才能、特技をもってのご協力をお願いいたします。

いま、まさにヒューマンネットワーク高専という、船が大海原に乗り出そうとしているところです。この船は各高専とも卒業期1桁の方々を中心に船出の準備が進められてきました。そして、とにもかくにも出航を果たしました。

行く手には多くの様々な障害が待ちかまえているでしょうが、私たちは、これらの全てを乗り越えられる知識・経験の豊富な者たちの集団です。

この船の定員は無限です。より多くの仲間を乗せて、高専文化の一翼を担う大きな船団となれるよう、皆で力を合わせて漕ぎ出しましょう。

## 追悼

---

---

---

---

---

ヒューマンネットワーク高専準備委員会代表幹事

### 山崎 元 さんを偲んで

田玉治實

設立総会まで準備委員会代表幹事として参画いただいた 山崎 元 さん（長野工業高等専門学校 機械工学科1期卒）が本年4月急逝なされました。

勤務先（株）長野計器製作所で午前中会議の後、脳内出血をおこし、そのまま帰らぬ人となってしまいました。取締役総務部長として企業の中樞を担い、近い将来の経営幹部として今後の活躍が期待されていただけに、友人としても残念でなりません。

山崎さんには、ヒューマンネットワーク高専の準備委員会で、設立の中心になり、設立総会が行われた昨年10月まで、代表幹事「ゲンさん」として我々を引っ張っていただきました。

設立後も、ヒューマンネットワーク高専の幹事として残っていただき、活動の柱として頑張っていたところでした。

私個人としては 長野高専創立と同時に機械工学科1期生とし一緒に入学し、思い出の多い5年間を過ごさせてもらいました。卒業研究も一緒にでしたし通学も一緒にしました。飲み仲間でもありました。

卒業後も共に同窓会を設立し、8年間に渡りその基礎を創るべく一緒に頑張りました。

近くに住んでいながら、その後お互いに忙しく会う機会が少なくなっていました。7年前からまたヒューマンネットワーク高専を通じて、親しく交流させて頂くようになった矢先に、君は先に逝ってしまいました。

30年間の思い出はとてもここに書き尽くすことは出来ません。

しかし、家族の皆さん、同期生、多くの後輩、会社の仲間、そして一緒に創ったヒューマンネットワーク高専の同志の心からは、君の存在が消えることはありません。

沢山やり残したことがあるとおもいます。残念だったと思います。残った我々で出来ることは受け継いで行きますので見守っていて下さい。

いずれ後からいきます。旨い酒を用意して待っていて下さい。そのときに成果を報告できるよう努力することを誓います。

とりあえずさようなら 「ゲン」

合 掌

# ヒューマンネットワーク高専 代表幹事就任にあたって

函館高専 機械1期（'87年卒） 藤嶋俊哉

第1回定時総会にて代表幹事に任命され、その任務の重さをひしひしと感じております。

私が、ヒューマンネットワーク高専を知ったのは、今年3月、たまたま電話で函館高専の6期・現在、機械料の講師をなさっている切明先生と話していた時、『昨年10月に設立総会が開催され、函館高専からは、土木14期の木元さんが参加されました』とのことで、以前から在校生の「全国スポーツ大会」や「全国ロボコン」だけでなく、OBの技術・生産・経営などがネットワークを創れないかとの思いがありましたので、切明先生より入会案内を送っていただき、会の趣旨に賛同し、早速、長野の事務局を訪ね田玉代表幹事、宮下事務局長とお会いし、入会させていただきました。

その後、東京で井崎代表幹事とお会いし、ヒューマンネットワーク高専のあり方について意見を交し、私がお手伝いできることで全面的に協力させてもらうことになりました。

第一期の卒業生が世にでてから30年、25万人のOB・OGの生き方は、千差万別であり、又、人生に対する価値観も人それぞれ異なると思います。幸か不幸か、社会人としての私は、東京の一部上場会社、大阪の非上場会社、ハイテクベンチャー企業でサラリーマンを勤め、その後、出願した特許の事業化の為、会社を設立し現在に至っており、色々な経験だけは豊富です。

時に失敗もありましたが、この30年いろいろな人と出会い、これらの人脈が私の大きな財産です。又、独立してからは仕事の面で、函館高専の同級生、後輩にご協力頂き、大変感謝しております。

このような私の経験が、ヒューマンネットワーク高専の組織作り、運営に少しでも活かすことができればと、代表幹事の役を引き受けさせていただきました。

ここで私のヒューマンネットワーク高専に対する考え方を述べさせていただきます。

人間はそれぞれは『個』ですが、『個』だけの存在はありません、「家庭」が社会の最小単位であり、「家庭」の集まりが街となり、地域となり、地球となります。一方の軸には、学校・会社・役所など、それぞれの組織があり、これらが何重もの層と軸があり、複雑に入り組んでいます。

子供は親の愛に包まれ成長し、自立します。しかし『個』としての自立とは、意識し、学び、経験し、行動し、自ら高める意志をもち、社会人として、日本人として、そして地球人として、確固たる人格を形成することと考えます。

『個』の鍛錬の第一ステップとして私達は5年間、高専で学びました。そして社会人として、さまざまな道を歩んできました。既に、『個』を確立なされた方もいらっしゃるでしょう。もう少しの方、これから向かう方、その状況は幾多の段階に分散しているものと思います。

ヒューマンネットワーク高専の第一の意義は、『個』の確立の第一ステップを共通の場として持っている私達が、各々の『個』の自立のバックボーンとなり、切磋琢磨し、相互により高め合うことにあると思います。

そして、次のステップとして、確立された『個=人格』同士が協力しあい、『相互依存』へと移行し、社会、地球に対し貢献してゆくことと考えます。

高専卒業生の大多数は技術者として、色々な形で、物作りに従事してきたと思いますが、技術の進歩は一方では、豊かな（物質的）生活を人々に与え、その一方では、人間が人間らしく生きてゆく為に大切な地球を、無意識にあるいは知らぬ間に、傷付けてしまいました。私も、遅まきながら、この状況を認識しました。

理想かも知れませんが、企業の縦軸ではなく、ヒューマンネットワーク高専のメンバーにより水平面の力で、地球上の人間・動物・植物が安心して、楽しく共存する世界を実現させるロマンを抱いています。

話が抽象的になりましたが、夢だけでは生きてゆけません。現実に目を向ければ、日本が食料の輸入に要する外貨は20兆円です。又、世界一労働賃金が高い国です。このために日本企業は生産拠点を海外に移し、産業の空洞化を招き、企業生き残りの為に、大規模なリストラが展開されています。

更に、高年齢社会を目前に控え、福祉の問題、老人医療の問題等難問が山積されています。2001年に迫った金融ビッグバンも日本にとって難題です。

これらの事を考えると、自分の生活は各々が自衛するしかありません。かといって、自分だけがよければ良的な考え方ではだめです。しかし個人の力では、目的を達成することは、かなり難しいと思われます。

そこで、高専という共通の場をもつ私達ヒューマンネットワーク高専を通して精神・経済の相互扶助システムを確立することが問題の解決の大きな力になるものと確信します。

ただし、ヒューマンネットワーク高専は決してエゴの母体ではありません。

高専卒という『個』の集合体であるとともに、世界中の目的を同じくする人々や、団体・組織とは積極的に交流し、地球社会の安定と繁栄の為に少しでも、役に立つことを目標として進むべきと考えます。

第1回定時総会で提案させていただきました事業計画案のうちから、事業概要を下記に掲げます。

今後、月例幹事会を開催し、25万人の仲間全員が積極的に参加していただけるよう、技術や経営だけではなく、全国62校の地域の特色を活かした情報や、趣味のコーナー・スポーツコーナーなど魅力ある内容を盛り込んだデータバンクとし、色々な角度・方向から有効、有意義な情報を双方向で、誰でも集いやすいネットワークシステムを構築し、一日も早く会員の皆様が楽しく利用出来るよう計画を実行したいと思います。

同期の多くは今年、プラスワン（半世紀+1）、私も皆さん同様、青春を謳歌しつつ、まだまだ学ぶことの多い毎日です。そんな中でのヒューマンネットワーク高専のネットワーク作りへの参加も私にとって大きな励みのひとつとして加わりました。

皆様もそれぞれに思いを持ち寄り、より多くの仲間が夢をもって集うフォーラム（FORUM：古代ローマの広場）を作りあげようではありませんか！

#### 事業概要

1. 各種統計（実態の把握）
2. 異業種交流及び連帯（共同体化）
3. 同業種交流及びマイスター制連帯
4. 技術情報センター（現行は会員制、将来はオープン）
5. 企業情報（協賛企業の会社案内、製品案内等）
6. 産学共同事業・開発プロジェクト
7. 高専企業プロジェクト
8. 新卒就職の一元化
9. 講演会・座談会・研究会主催
10. 出版
11. 各種コンサルティング・カウンセリング

# 特 集

ヒューマンネットワーク高専

第1回定時総会報告

## ヒューマンネットワーク高専 第1回定時総会 次第

1997年6月28日(土) 於：はあといん乃木坂

### 1) 講演 PM 1:30 ~ 2:00

演題 技術者の未来とヒューマンネットワーク高専

講師 白倉 英一 氏

1970年長野高専機械工学科卒 (柔道4段)

(株)エアーサプライ代表取締役 (病院、製薬会社のクリーンルームの空調設計等)

愛知工業大学 建築工学科非常勤講師

### 2) 第1回定時総会 PM 2:00 ~ PM 2:30

経過説明 会則 事業計画提案

### 3) 運営討議 (分科, 全体会議) PM 2:30 ~ PM 6:00

提案

◎ 高専制度と同窓会連絡協議会の結成について

代表幹事 (富山高専同窓会長) 石山 彰雄 氏

◎ 異業種交流の運営及び産学共同研究について

代表幹事 井崎 淳一郎 氏

◎ インターネットの利用について

長野高専同窓会長 舞田 正幸 氏

◎ インターネットのホームページについて

長野高専 松原 光昭 氏

◎ 組織拡大の提案について 1

代表幹事 (函館高専) 藤嶋 俊哉 氏

◎ 組織拡大の提案について 2

代表幹事 (長野高専) 田玉 治實 氏

◎ 同窓会長による実況報告

◎ 意見報告

◎ 討議

司会 池田 明

開会に当り、代表幹事 井崎淳一郎から挨拶があります。

**井崎** 宇部高専電気科卒の井崎です。

私は現在東京の方に居ます。

私は全然知りませんでした。台風が来ているということで、今日の出席者はお手元の資料にあります。36名の全国卒業生を予定しておりましたが、いわゆる飛び入りということで急遽かけつけられる方も何名か居られますが、都城・大分・北九州高専の方4名程が飛行機の関係で遅れておられる様ですけれども、現在28名の出席を得ております。それで、今幹事が28名居まして、そのうち代表幹事が3名であいうえお順で一番早いものですから開会の辞ということで冒頭の辞をのべさせていただきますことになりました。

全国に62の高専がありまして、今日は旭川・函館と北海道の方からいずれお見えになると思いますが、九州からは北九州・都城・大分ということで、全国から来ていただきまして、第1回目の定時総会を開くことになりました。

1時35分から討議の時間を約5時半頃までとりました。引き続き6時から9時迄時間をとって懇親会と長丁場ですが、リラックスして活発な意見をいただければと思います。

冒頭の辞を述べさせていただきます。

**池田** どうもありがとうございました。

総会に先立ちまして前回の設立総会におきまして、公演会等を交えた総会をやっていた方がいいのではないかと提案がございました。そんな中で、先ずスタートとして我々の仲間うちから始めていき、ゆくゆくは外部から講師を招いて皆さんの要望を聞きながら有益な講演会を聞いていきたいということでございます。そういった事で今回は長野高専3期の白倉英一様から「技術者の未来とヒューマンネットワーク高専」について講演していただきたいと思っております。

プロフィールといたしましては、高専の機械工学科を卒業いたしております。

柔道4段ということで、エアサプライ代表取締役で病院製薬関係の空調設計などをされておられ、又愛知工業大学の建築工学科の非常勤講師をしておられます。

白倉英一様をお願いしたいと思います。



## 講演

# 技術者の未来とヒューマンネットワーク高専

(株)エアースプライ代表取締役 白倉英一



**白倉** 只今ご紹介にあずかりました長野高専3期生の白倉でございます。本日は「技術者の未来とヒューマンネットワーク高専」について、話しなさいというなかなか難しい演題ですので、私の半生を振り返りながらお話しさせて頂こうと思います。

「一本、技有り、有効」と、こんな調子で、毎週土曜日40名程の子供たちにボランティアで柔道を教えています。世代の違う子供達とこうしていい汗を流せるのは高専時代に柔道をしてあったからと思っています。

あの頃は授業は4時頃に終わり、それから7時までミッチリと柔道に打ち込んだような気がします。たまたま長野県の北御牧村という田舎から、長野市というあの当時では都会に出て遊び方が分からなかったことと、学校の門の前が女子高校であったことが幸いし、腕前もメキメキと上がったことを覚えております。今日も柔道の先輩も後輩も来ているので、あまり詳しいことは申しません、この位にしておきます。

私共の頃は、高専と他の高校の複数受験が許されていたことから、進学校の方も合格していましたが、もし、進学高校を選んでいたら、柔道との出会いはなかったのではないかと、そんな風に思っています。

先日、地域のスポーツ指導員、父兄、学校の先生の三者懇談があり、その席で、あるお母さんが「自分の子供も60才ぐらいになっても、自分のやってきたスポーツを地域の人達に教えら

れるそんな子供に育てたい」という意見が出ました。苦しくもその方が自分が柔道を教えている子供のお母さんであったので、半分は自分の体力維持のために教えている訳ですが、そういうことを忘れて、充実した気分になりました次第です。又、同時に最近の親御さんの教育に対する考え方も変わって来ているんだなあと感じました。

もう一つ高専時代で忘れることのできないのは寮生活であります。おそらく夜は7時頃まで柔道の稽古に掛かってしまいますが、終りの時間が遅くなっても通学時間の心配はいりませんので、みっちり出来たのではないかなと思っています。また、寮生活では夜9時を過ぎると、夕食の残っているものは、食べてよい規則となっていましたので、成長期の私にとっては、非常に助かりました。また、寮に入っていると、先輩からのよき指導（シゴキの様なものですが）をいただきましたし、夜を徹しての青春論、と寮生活に代表されることは全て学ばせてもらいました。特にインキンというのには参りましたが…。

授業内容のことはとんと覚えていませんが、先生方のお話で、今も記憶に残っていることが2つあります。

1つは、「最終学歴は、一生付いて廻る」といわれた金属材料の先生の授業中のお話です。その時は先生が何を言いたかったか、真意は分かりませんでした。が、「高専を選んだことを後悔するな、自信を持って、お前たちが歴史を作りあげていくんだ」と言いたかったのではないかと思います。

それからもう1つは、裁判所から非常勤で来られていた法律の先生が去られる時、最後のお話で「学生は徹底的に学ぶか、徹底して遊べ」と説かれました。私はそれまでは勉強する様なしない様な学生でしたが、このお話を聞きまして、後者の徹底的に遊べを選びまして、社会人になっては経験できない、レストラン、喫茶店、家具屋さんなど学生しかできないアルバイトをさせていただき、学生だから許される色々な経験をさせて頂きました。

私が高専を選んだ理由は「早く世に出て、自分の力を試したい」が最大の理由でしたので、私にとってはあの頃の高専制度はまことに都合のよいものでした。しかし、4年生頃になると、進学校に進んだ友達がどここの大学の1期校に入ったなどと聞くと、「ウーン」と思う時期もありましたが、あの厳しくも過酷な期末試験がすぐにそれを忘れさせてくれました。

最近こそ期末試験の夢は見なくなりましたが、サラリーマンをしている頃は、時々見ることがございまして、今も感謝しています。

こんなうれしかった期末試験とも別れを告げ、選んだ会社は総合力を生かせる、自分勝手にそう思い込んでいた訳ですが、空調会社の高砂熱学を選び、当時求人が来ていませんでしたが、先生にお願いし、願書を取り寄せてもらい、入社しました。学生時代にサボった分そのツケが回って来たと言いましょうか、必要に迫られたと申しましょうか、病院の設計、あるいは製薬会社の設計などで色々勉強させられました。その甲斐あってか、愛知工業大学というところで、

非常勤で建築設備の設計を教えるということになり、以来16年間続けています。その就職しました高砂熱学という会社には12年間勤務させて頂きましたが、一通りのことはだいたい分かるようになりましてので、長野を出る時に決めていた“33才になったら会社を起こすぞ”これは寮生活の中で遊びが得意な人、あるいは話が得意な人があり、また、恋愛論が得意な人、それから企業論ですね、いつ会社を起こしたらいいか、どういう職業に就いたらいいかですね、そんな話の好きな人、色々千差万別居りましたから、そういう意志のある人間とよく話をしていました。その中で企業のスタートは33才ということをあの頃決めたことを実行しました。

親戚縁者もない名古屋の地でしたので、新しく独立する技術屋としてはすきま産業をねらうということで、今までの技術を生かした設計図、施行図、技術計算などを専門に行う会社を起こしました。16年間も経ったのに残念ながら15名ぐらいの会社にすぎません。これが技術屋の泣きどころと申しましょうか、慎重さ、あるいは堅実さがそうさせているのかも知れませんが、何分広がりがありません。もっと早くヒューマンネットワーク高専というものができていたら展開も多少違っていた様な気がします。

ここで本題の技術者の未来と高専の将来について考えますと、「工業立国日本」として生きるには今現在まだまだ技術者は不足だそうであります。又学生の工業系を選ぶ人も少なくなっているそうです。たとえば日本の電卓で世界に誇れる技術をつくり出した、IC、LSIのことを例にとってみますと、ICの原理ですね、①基本理論を考える技術者、あるいは今度は、②回路の原形を作る技術者、またそれを③生産ラインに乗せる技術者、④更に大量生産する技術者と大きく分かれると思います。高専の教育は多分その③の生産ラインに乗せるための技術者、あるいはフォローする技術者だと思います。その人の資質によってはそれが②の開発や①の理論の技術者に発展する方も中にはおられると思いますが、②や①に向いている人も生まれてくると思います。

人にとって大事なことは、学んだことをどう生かし、どう継続するかという様なことではないかと思います。高専が他の教育制度にない特長は、15才から20才までの間の体力の一番伸びる時期に進学の心配なしでスポーツを通し体力や気力の充実を計れる場であること、あるいは1、2年生の感性豊かな時に寮生活を通し、協調性、親からの独立心また親への感謝などを身に付けることができる、こういう事が特徴かと思います。また3つ目にはより高度な教育を求めようとすればそういう道も開かれている。と言ったことがあります。4つ目としまして厳しい期末試験の制度はそのまま残して教育にメリハリのある社会に出て実際に通用する、そういう学力を身に付けることができる、そういう4つの事を主眼に置いて進めていくなれば、まだまだ高専の伸びるところは大きいのではないか、多いのではないか、そんな気がしております。

以上のように私のつたない半生を振り返りながらお話をさせていただきましたが、このような各企業とかあるいは世の中に出て自分が行った事例あるいは世の中に生きて来たという様な

こと、また先輩として高専生時代はどうであったかという様なこと、現状を知らせる場をですね、何らかの方法で持てないかと、また30万人も居るといわれる仲間たちと共に手をとり合っ、互いに研鑽出来る場はないかということで7年前、事務局長をしている宮下君の方からそういう話がもちあがりました。代表幹事の田玉さんには、その頃は準備委員会と称しておりましたが、色々手弁当で組織のあり方の骨子をつくって頂いたり、ネットワークの構築などしていただきました。また、せんだってからは代表幹事ということで石山さん又井崎さんにお骨折りをいただいて、だいたいの骨子ができあがりつつあります。

又、本日同席できないことが誠に残念ですが、長野高専のシンボリック的存在でありました、ヒューマンネットワーク高専の準備委員会の代表幹事でありました、山崎 元さんには長野計器(株)取締役総務部長という多忙のなかでありながら、皆のまとめ役として多大な努力をして頂きました。残念ながら今年四月“志半ば”で永眠されましたが、本日の総会を一番喜んでいるのは彼ではないかと思えます。ご冥福をお祈り申し上げますとともに、深く感謝申し上げたいと思えます。

さて、このような土台を基にヒューマンネットワーク高専は誕生したわけですが、本日各地からこの台風にもかかわらず駆けつけて頂いた皆さん方の中にも同じような気持ち、同じ様な志で本会に臨まれた方も多いたと思います。「誰が先に考えたとかということではなく、いかにこの考えを発展させるか」が今我々が後輩にしてやれる、いや卒業生としてしなければならない義務でもあり、また責任だと思ひここに集まった様な次第でございます。高専制度が世の中で、生き残っていくかどうかということは、本日ここにお集まりいただいた皆様方の今後の行動いかんではないかと考えております。

つたない話しではありましたが、私の経験を通しての考えを述べさせていただきました。これからもこの様に、いろんな経験をいろんな形で後輩たちに送って行きたいと思えます。皆様方もそういう方向での御協力をお願いしたいと思えます。

どうも御静聴ありがとうございました。

## ヒューマンネットワーク高専 第1回定時総会議事録

**池田** 本題であります第1回定時総会を始めます。

議長を幹事会推薦の長野高専4期の横澤由明さんをお願いしたいと思いますが、いかがでしょう。(異議なし) それでは、横澤由明さんの方に議長を渡したいと思います。

### 経過説明

**横澤** 只今ご紹介いただきました長野高専機械工学科4期卒業の横澤でございます。不慣れた議長ですが、審議活発な意見をお願い致したいと存じます。

それでは総会に入らせて頂きます。

まず、経過説明をお願いします。代表幹事の田玉さん、お願いします。

**田玉** みなさん、こんにちは。長野高専機械1期の田玉です。前会の設立総会で代表幹事をやれということで、この間準備を進めてまいりました。本来ならば、設立総会以降の説明でよろしい訳ですが、初めて参加なされた方が多い様ですので、簡単にこれ迄の経緯も含めてご説明させていただきます。

先程、白倉さんの方からも説明がありましたように、私達長野高専の中でヒューマンネットワークの全国組織を作っていきたいという発案がなされて7年目になります。

6年位前の時、有志13名が川越の佐久間旅館に集まりまして、準備会を発足させました。そこで大体の方向付けをして、とりあえず地元からという事で会員の募集、それからいろんな企画の立案等をして準備会を進めてまいりました。私達、団塊の世代を含めましてちょうど50才から40才位の人達なので、企業家の方は忙しいし、企業内に在る方は幹部になっていたりして、中々進みませんでした。けれども、昨年春にこの状態のまま長野ばかり増やしていてもしょうがないので、設立総会を開こうとして、10月に都内池袋のホテルメトロポリタンに集まりまして、そこで設立総会を開催しました。約40名の方が参加していただき、内28名の方に幹事をお願いしました。

ここでの議事はまだ設立したばかりなので、会則・事業計画・なども白紙のまま代表幹事の選出、それから分科会に於いて討議したことを代表幹事会で集約して会則・事業計画を作成し、検討して次の総会である本日の第1回定時総会に提案していくことで、皆様より委任されました。

それを受けまして、今年の2月に代表幹事であられます石山さんの富山にお伺いし、事務局長含め4名で会則・事業計画のたたき台をつくろうとして、5時間程討議致しまして、事業計画は方向付をするというところまでとしまして、会則は井崎さんの方から提案させていただくことにしました。

又、会の設立主旨・沿革・設立総会の様子・分科会の討議を編集は遅れましたが、皆さんお手元の「赤とんぼ」にまとめて2月に発行致しましたので、これらの経緯は読んでいただければだいたい理解いただけるかと思えます。

赤とんぼの題は、会外の方が付けてくれたのですが、どういうことかといいますと、とんぼは生まれた頃はそれぞれ山の方で一匹、一匹育っていくのですが、成長するにつれ、里へ降りてきて大集団になって行動するという意味で、私達ひとり、ひとりの高専生がみんな集まって、ひとつの方向目指してみんなで頑張ろうではないかという意味でつけていただいたものです。

それで「赤とんぼ」という題にしました。今後会報として続けていきたいと思えます。

討議の時間を長くとりたいので、報告は以上にしたと思います。

## 会計報告

**議長** ひき続きまして、今迄の会計報告を宮下事務局長よりお願いします。

**宮下** こんにちは 事務局長をしております長野高専機械3期の宮下です。よろしくお願ひ致します。

初めにお詫びをさせていただきます。「赤とんぼ」を編集するにあたり、何人かのお名前とか経歴等間違ってしまったところがございます。或いは本日の資料の中にも皆様のお名前、住所等々、間違えている部分がありましたら、お許しいただきたいと思えます。性格はおちょこちょいであり、独断と偏見で押し切ってしまうきらいもあつたりの人間です。これからも発生するであろう間違いも含めて、お許しをいただいておりますとお願ひ致します。

さて、収支報告の前に現在の会員総勢をご報告させていただきます。正会員として入会金10,000円年会費6,000円を頂いている会員が本日迄でちょうど100名です。それからパソコンネット上でサポート会員として無料で参加いただいている方が197名というのが今の実勢でございます。そして、本日迄に参加されている学校数は20校となっています。本日飛び入りで参加された方の学校は名簿に加えて加数をしていただきたいと思えます。

それでは収支報告を致します。

収支決算ですが、本当は細かいのですが、帳面の方は妻がやっております、私はその時々お金があるか無いかの確認をするだけにしておりますので、そんな感じの報告をさせていただきます。

まず、1992年から1996年10月迄の準備会として、総収入が1,979,529円。内訳は会費と、諸々の会議等での飲席を安く設定して酔ったすきに頂いたお金がほとんどの収入でございます。

支出としましては、1,766,054円

残金が 213,475円となります。

支出の方は設立総会を挙行した分も入っております。そして、213,475円の残金は新しく設

定されたヒューマンネットワーク高専の最初の繰越金となっています。

次に本年の会費等収入ですが、466,905円

繰越金を合計して 680,380円となり

ます。

支出として、赤とんぼ印刷代 267,800円

尚、パンフ・封筒・冊子等印刷物に関しましては、代表幹事の田玉さんの弟さんの友人の方に全ての事情を理解していただいて、特別に安い金額でお願いをしていただいています。1,000部作成し、あと残っているのは100部程です。



今回非常に回転が良く、この総会にも役立っているのではないかと自負しております。

続きまして 送 料 138,220円

手数料 412円

慶弔費 15,000円

それから初めて公の支出として、先程の準備会迄の代表幹事、山崎 元様が4月に急逝され、ヒューマンネットワーク高専として花輪を献上致しました。

支出合計 421,432円となり

残金は 258,948円となっています。

今日の総会費用が井崎さんの紹介ということで非常に安くお願いしており、30万円と少し出る位の予算となっています。残金の25万円と皆さんにお支払いいただいた分で賅えるのではと思っております。その様な状態が我々の置かれている金銭的な立場でございます。

以上で収支決算報告とさせていただきます。

1992(H4).10 ~1996(H8).10 設立総会迄

収 入		支 出	
入会金・会費	1,383,000	事 務 費	455,423
篤 志	591,426	会 議 費	749,006
利 子	5,103	印 刷 代	301,458
		通 信 費	217,731
		電 話 加 入 金	42,024
		手 数 料	412
収 入 合 計	1,979,529	支 出 合 計	1,766,054
繰 越 金			213,475

1996. 11 設立総会以後～1997. 6. 23 定時総会迄

収 入		支 出	
前期繰越金	213,475	交 通 費	138,220
入会金・会費	455,000	印 刷 代	267,800
篤 志	11,000	手 数 料	412
利 子	905	慶 弔 費	15,000
収 入 合 計	680,380	支 出 合 計	421,432
繰 越 金			258,948

**議長** ありがとうございます。

たいへん雑把なので御質問と言われましても中々出ないかと思われましますので、先へ進ませて頂きます。

次に会則の説明という事で、代表幹事の井崎さんよりよろしくお願ひします。

### 会則説明及び審議

**井崎代表幹事** ヒューマンネットワーク高専会則案という事で、実際に活動するに当たっては、こういったルールが無いとバラバラでは出来ませんので、一応たたき台として用意しました。

★会則説明の後審議★（会則説明省略・前頁に記載）

**和歌山高専 中本** 私は入会していませんけれども、本日来させていただいたのは入れさせてもらおうかなと思って来ましたので、意見を言わせてもらいます。まず、退会のところ「特別な事情がない限り認めない」部分について、来る者は拒まず、去る者は追わずというか、気持ちは分かるけれど、開かれた規則ですから、この部分は無い方がよいのではないのでしょうか。それと、入会金と会費が高いと思いますが。

**旭川高専 村中** 入会金の事なんですけど、東京に事務所がありまして、その代表として参加させてもらった訳ですが、正会員という意味が解らないんですが、私の場合、同窓会の事務局として参加する様になると思うんですが、個人として参加する場合、ちょっと高いかと思いません。その金額のことについても協議して下さい。

**新居浜高専 成岡** 昨年会費の件について設立総会にてこのくらいが妥当であろうとして決めた経緯がありますが、個人的に確かに少し高いかと思ひますが、私達は会社の労組費等で10,000円ぐらいとられているが、ほとんど機能していないという様な現状です。これだけの全国組織を立ち上げていこうという中で、月々500円程度のお金では逆に足りないのではないかと私は思っています。

ただ、会員が多くなって来れば会費は少なくてもいいでしょうが、今現在では苦しい、非常

にボランティア的な方が、無償で労働を提供していただいているという中で、運営されているという上で、金額が設定されているという風に私は理解しています。

**八代高専 福山** 同窓会の関東支部長をやっています。私も会費の事は気になっていましたが、設立の主旨には賛同致しますが、その目的とするところは、全国に散らばっている卒業生が30万人居るということですが、そのうちのかなりの方に入会していただくところが設立の主旨と大きく合っているところだと思いますが、そうした時に今、例えば卒業してすぐ社会に出た方にとっては入会金1万と年会費6,000円は抵抗があると思います。ですからそういうところから会員は増えないだろうと思われる。

一方、事務局としてもお金が掛かるというのは理解できるので、これは個人的な意見ですが、同窓会が特別会員として入るのであれば、この3万円をもうちょっと増額し、それに充当できれば、全国の同窓会にうすく負担をしてもらえば、個人的に負担は少なくできはしないかと思いますが。

**育英高専 高村** 私達の同窓会では年額2,000円ですが、これは6,000円ですね。私達の2,000円もなかなか納入してこない現状で、四苦八苦している状態です。事業を行うということで、私達の同窓会は1万名の会員ということでその中で何をするか、名簿を作成した中でコマーシャルを入れる、企業の宣伝も入れるという方法で何とかまかなっている現状です。

会費は先程の意見にありましたように、同窓会の会費を増やして個人の会員からは少なくする。また、事業をやっておられる方、企業から寄付をいただくという方法に替えた方が会計としてはやり易く、会員も増やし易いのではないかと思います。

それから会則自体が少し固い様な気がします。もう少しやさしいほうが入り易い様な気がします。

**豊田高専 岡本** 8条の退会についてですが、幹事会の承認を得てというのも、引っ掛かりました。

また、会費についても意見にあります通り私も今回初めてどういうものかということをお聞きするために参加したんですが、入るのであれば、同窓会として参加したいと考えています。

といいますのは、私達は毎年名簿を発行していますし、ホームページも持っています。この中でこういったものを広げるということは、同窓会の名簿も入りましたならば掲載させて頂き、ホームページにも載せるということによってやっていきたい。また、個人の名簿の中にメールアドレスを乗せてもらいたいと思います。

広げるという意味ではそういった事で同窓会参加の方法で充分ではないかと思っています。

また、個人の資格で参加したいという人はどうぞということではないかと思っています。

ただし、ここで言う特別会員として同窓会が加入するかどうかは、私達は今年の11月に総会がありますので、そこで諮って決めようかなと思っています。

**函館高専 藤嶋** 特別会員について質問します。各校の同窓会は特別会員ではないですよね。特別会員というのは他の団体という意味で高専卒生はすべて正会員となるはずですが…

会費の件ですが、私などはこれでやって行けるかなと思うくらい安いのではないかと思います。但し、高い安いはその価格でメリットがあるか無いかで決まる訳で、1万だと1回飲みを減らす、500円はタバコで2箱減らす、とそれで全国がひとつになれば安いなと思った訳ですが、そこらへんもう少しつめる必要があるかなと思います。田玉代表幹事から会費の説明をして下さい。

**田玉** 前回1万円と6,000円にした経緯と討議の結果を説明致します。

まず、先程の会計にありました様に、現状までやって来てかなり会計的には苦しい状況です。それから、前回の設立総会の時にとりあえず動き出さなければ何も出来ないということで、入会金と、会費にだけ了解を頂きまして、当面これで動くことと決めまして、すでに入会頂いている方にはこれでお支払い頂いているのが現状です。

また、私達も事業的な面、及び協賛会社の募集に関しては検討を進めていますが、今すぐという訳にはいかないの、これを年会費として決めていただいた通りにご提案申し上げましたが、また今後活動方針等を決めていただく会がありますので、そこで入会金、会則等、発言していただいてもう一度そこで討議を進めていくという様な風をお願い致します。

現状でどうしたらいいのかというのは、この会は出来たばかりですので、第1目的は会員の数を増やしてから活動していくと、その為に協賛会社が増えて私達の負担が減るというのは大歓迎ですし、出来ればそういう方向も、また先程の事情、それから広告とか出版物の中でやっていくことを検討していきたいと思います。

それから、同窓会連絡協議会をつくるという関係で今回同窓会長さん及び同窓会関係者の方が大勢出席いただいていますけれど、今回はヒューマンネットワーク高専とはどういうものかをご理解頂くとともに、それぞれの同窓会がどのように関与していただけるか、また、それぞれの同窓会とどのような活動を一緒にしていけるかというご意見も次の提案の方でまた議論していただきたいと思います。

この1万6,000円もここで決めたから絶対これではなきゃいけないということではなくて、当面これでやって来たし、今はこの予算で動いているということでございます。

また、このあと多くの時間をさいて同窓会が横でつながる様な模索の中や、広げていくにはどうしたらいいのかの討議の中で、会員を含めもう一度検討をお願い致します。

**育英高専 高村** 私は高専卒ではないですが、私達は創立60周年になりますので、私の時は高校でした。私は現在会長をやらせて頂いていますが、そういった場合、高専に在籍した人でないと会員になれないけれど、私個人はどうしたらいいのか？特別会員なのか？当てはまるのかなというのを討議して頂かないと我々には入れないということなので、そのへんもよろし

くお願いします。

**田玉** 育英さんの経過も存じあげておりますし、また、逆に現在は工科短期大学という風に名称が変わってしまっているところもありますので、その辺のところは巾広く考えて大勢の仲間を迎え入れるという方向で考えるべきと思っております。

会則の中で表現を考慮してやっていきたいと思っておりますので、育英さんも一緒にやっていただける方向でよろしくお願い致します。

**議長** 6条、8条、9条について主にご意見が集まっておりますが、このあとの運営討議の中で更に煮つめていただくということで、設立総会から本日までに幹事会として討議をして議題として出しておりますが、更に討議をして修正が出来る範囲は修正させていただいて解釈の違い等を正し、言葉の取替え等をして加えるべき所は加えて、皆様のご意見の入れられるところは入れまして、本日の総会で案を外して会則として発足させたいので、このあとの討議を交えた上で、決めて頂くことで総論としては了解頂いたということで6条、8条、9条について次の提案とともに討議いただくこととして次に進めたいと思っております。

それでは、役員等の選任ということでご提案を田玉代表幹事お願いします。

## 役員解任

**田玉** 承認という形はオブザーバーが多く、難しいので今回、監査等もありますが、任期としては前回設立総会より役員、幹事28名代表幹事3名に加えて残りの任期1年ということで、ご提案申し上げます。

まず、新しく幹事に函館高専1期の藤嶋さんを御推薦申し上げたい。それに、幹事から監査の方へ新居浜高専の成岡さんをお願いしたい。それから新規に長野高専の降籐さんを監査としてお願いしたい。

藤嶋さんを北海道方面、それから東京に居られますので、窓口としての役割として、代表幹事としてお願い致します。それから2名に新規に監査として就任して頂きたいと思っております。ご了承をお願いしたいと思います。従いまして、新しく幹事28名（内代表幹事4名）、実行態勢として1減1増です。

**議長** 以上の新役員の提案ですが、ご理解頂ければ拍手をお願いします。（拍手）

**田玉** その他に同窓会とか個人の方で本日参加しておられる方の中に私は自分の地区の自分の高専担当の幹事をやっていただける、又は地域代表として代表幹事をやっていただけるという方がおられれば、このあとの討議の中、又、執行部の方へ連絡頂きたいと思っております。出来るだけ大勢の方に参画頂きたいので、お願いします。

新役員のご紹介を致します。

(自己紹介の後新代表幹事あいさつ)

**新代表幹事 藤嶋** 私、これを知りましたのは今年の二月、函館高専の後輩で教員をやっております「切明」君から「こういう会が出来ていますよ」と設立総会の時に土木の14期の非常に若い君が参加していきまして、この君が高専の方の同窓会事務局に報告してあって、そこから連絡をもらった私自身も函館1期ですからもう卒業31年目になります。その中でいろんな高専の仲間とつき合いながら高専はひとつという思いがどこかにあった。それを聞いたものですからすぐ事務局の宮下さんの方に電話してどういうことをやろうとしているのかというのを伺いましたら、非常に趣旨等すばらしいことだな、私もやりたかったということで、私自身もお手伝い出来るなら、微力ながらお手伝いを始めている段階で代表幹事という重責は私には荷が勝っている様な気もするのですが、現在ある程度私的な会社をやっていて、自由な時間が作れるものですから、何とかやれる範囲はお手伝いをしようということで、今回代表幹事をどこまで出来るか分かりませんが、何とか本当のいい会に仕上げるためにお手伝いをさせていただきたいと思いますので、どうか今後ともよろしくお願い致します。



## 事業計画提案

**議長** それでは、引き続きまして事業計画の提案ということで、運営討議の項目が載っておりますが、こちらへ移させて頂くということで、とりあえず、議決等の裁決はその後ということで御了解願います。

それでは運営討議の進行を田玉代表幹事に引き渡したいと思います。

**田玉** 事業計画に移りますが、提案事項という形で発表していただきます。

提案自体が前回設立総会時に案として提出されたものを具体化し発表していただきます。

方法と致しまして、4つのくくりで、1番目に代表幹事石山さんより同窓会連絡協議会の結成について、2番目として、代表幹事井崎さんより異業種交流の運営及び産業共同研究について、3番目として、長野高専舞田、松原さんより2件のインターネットに関する提案、4番目として事業運営を藤嶋さんより順次発表いただき、討議していきたい。その結果を資料として代表幹事会で検討させて頂き、会の活動方針を出来るだけ早く作りあげて会員の皆様にお渡ししたいと考えます。

では、それぞれのテーマについて御報告願います。まず、富山高専の石山代表幹事より高専制度と同窓会連絡協議会の結成についてのご提案お願いします。

### 高専制度と同窓会連絡協議会の結成について

**石山代表幹事** ただいまご紹介いただきました富山高専同窓会長をしています石山です。

今日たくさんの方にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。更に同窓会の会長はじめ、関係者の方、大勢お出でいただいていること、心強く思っております。ヒューマンネットワーク高専もですね、これから益々活動的になっていくのではないかと思います、大変嬉しく思っているところでございます。

実は、先程より問題となっているところはヒューマンネットワーク高専と同窓会の関係をどうするかというところでないかと思います。曖昧でありますし、当然曖昧でなければいけないのですが、ヒューマンネットワーク高専というものが同窓会と連絡をどうするかというのは当然決まっている訳ではありませんし、決めようがないのかも知れません。そういう意味ではこれからどういう方向でいくのかというところを各地からお出でいただいた同窓会長の意見を参考にしながら、私として同窓会がどういう方向にいくかというところを会長さん達と検討していきたいと考えているところです。そういうところを高専の同窓会連絡協議会という形で全国のネットワークをヒューマンネットワーク高専と別個のもので作らざるを得ないのかなとも思っているのですが、先程早くまいりまして、午前中にお話したのですが、ヒューマンネットワーク高専が食うのか同窓会連絡協議会が食うのかという様な食うか、食われるかの話し合いになる可能性もあると思うのです。

そういう意味では、私の考えでは全国には高専の同窓会というのは元々ある訳ですから、そういうものを全国的な組織にして連絡協議会、色々な情報交換をしたり、高専制度について話し合いをする方がいいのではないかと考えていましたが、それをするにはものすごいエネルギーがいる訳でして、たまたまヒューマンネットワーク高専というものがあったので、それじゃあおんぶしていただくかなということ、大変申し訳なく思っているところであります。そういう意味でヒューマンネットワーク高専の方から見れば、同窓会連絡協議会とは何ぞやということですけど、その辺のところ多少我慢して頂いて、私はヒューマンネットワーク高専というものを一生懸命育ててもいかななくてはいけないなと思っていますので、その辺はご理解をさせていただきたいなと思っている様な私自身勝手な考えをしている訳ですけど、そういう意味でヒューマンネットワーク高専を育てていきたいと考えています。

同窓会の会長さん方に私はひとつお聞きしてみたいなと思っている事があります。それは現在の高専制度というものについて現状でいいのかということでもあります。その辺の認識をひとつ聞いてみたいなと思っています。生徒として、はっきり言えば高等専門学校という名称でいいのかというのが私の出発点でありますけれど、例えば就職案内をみましても、皆さん当然そうは思っていないと思いますが、大学、短大、高専、高校の順です。こういう序列でいいのかということです。高専卒業生はそれで満足しているのかということを知りたいのです。少なくとも短大の後に高専をもって来てそれで僕らは納得しているのかということを知りたいのです。私たちのやっていることは、専門課程そのものは大学と同じカリキュラムを組んで学んだという自負はありますし、そういう意味で少なくとも短期大学の後に高専を入れて、それで良しとしてしまう様では高専制度そのものを全然理解されていないと思うのです。

高専関係者が何の発言もしていないという話に飛躍してしまいますけれども、そういう事だろうと考えています。是非とも発言する場所がなければいけないということで、最終的には学校教育法というのがある訳ですけど、この中に高専というのがありまして、大学という省がありまして、その次に高専という省というのがある訳ですけど、最終的には学校教育法というのを改正する様になる訳ですけど、色々なところで発言しなければ誰も改正しない訳でして、誰が発言するかと言えば当然学校の先生方も発言するでしょうし、国専協の校長先生方も一生懸命やっておられるにも関わらず、中央教育審議会なんかに行くと高専なんてレベルは全然話なんかする人はいない訳でして、ほとんど大学とかの話ばかりで高専のレベルなんて話は誰もしない、こういう事だろうと思います。

やはり、高専の先生もそうでありますけれど、卒業された方が同窓会が何もしない、これは絶対いけない。同窓会の関係者が責任を持ってそういうところで発言をしていただきたい。私はそう考えていますので、そういう意味において全国の同窓会というものは集まって一緒に声を出しましょうと、こういう事を提案したいのです。初めに申し上げましたが、ヒューマンネッ

トワーク高専というものとの関係がありますので、これから色々育てていきながら、その中で色々な御意見を伺いながらどういう方向でいくかということからやっていかなければいけないと考えています。

ヒューマンネットワーク高専というものは目的として色々ありますので、単に高専制度の話だけでなく、卒業生の就職なり企業の情報とかを集めたりという話になりますので、同窓会連絡協議会とは一緒になるところはないかも知れません。ヒューマンネットワーク高専とは別なものであるということもありますので、必ずしも全部バッティングしているという事ではないだろうと思いますので、高専の同窓会連絡協議会というものをまた別の形でつくる可能性を考えながら最初の突破口をどこに置くかというところで、とりあえずヒューマンネットワーク高専に乗せていただくかというところでございます。そういう意味も含みまして、この会則の中にもありますが、ヒューマンネットワーク高専の活動だけでなく全国の高専の同窓会をどう発展させていくかということも含めながらご検討いただいて、全国の同窓会の代表の方々の御意見をお伺い致したいと考えています。

たくさんの意見をお伺いして参考にしながら同窓会の全国組織というものを作り出していきたいと考えています。よろしく御意見を願います。ありがとうございました。

**田玉** この件に関しまして同窓会関係者が大勢みえておられますので順にご意見をお伺いしたいと思います。

**長野高専 舞田** 長野の舞田でございます。1期が今さら同窓会長という訳ではないのですが、10期ぐらいの若い人にどうかと考えているところですが、どうしても人がいないということで、長野市に在住して学校の近くでやっている方が選ばれている訳で、長い人は10期ぐらいお務めで10人ぐらいの方が交替でやられて、私は今2年目でございます。昨日の同窓会に久しぶりに出席致しましたが、どこも同じかと言いますと叱られますが、集まりが悪くて事務局と地元の間人だけという感じです。そうなりますと、内容も何十年の流れの中での相変わらずの事業内容の報告となっています。

先程の御発表の中で感激致しましたが、せいぜい30年ぐらいの同窓会でどうして全員の総意の運営ができないのかと考えていましたので、仕事の関係で学校へお伺いする機会がありまして、同窓会の理事の方と何回か話し合う機会が持てまして、このままではじり貧になるだけだと。それから高専の卒業生は同窓会という意識は全くもっていないということだと思えます。

私、勤めはNTTですが、過去の歴史もございまして、高専の卒業生が巾をきかしています。長野では長岡と長野の2校が主ですが、企業内の同窓会がございまして、中で情報公開とか後輩の面倒やらをみたりしている訳ですが、閉ざされたヒューマンネットワークかなと思っています。

今回ヒューマンネットワーク高専の全国的な組織ということで、非常にいいことだなと思っ

ています。協議会につきましても、そういった背景がございまして、各校の方にまた御意見をお伺いしたいのですが、協議会結成になってしまうような気がします。本当にすみずみまで全国高専の同窓会として機能できるのかなと考えてしまいます。

そんなところから今回紹介しようとしておりますが、情報公開の場をとにかく作ろうと同窓会報は出していますが、1年に1回とあまりフレッシュな情報も出ないということで、同窓会のホームページを学校のサーバーの中につくってみました。手前みそではありますが、こういった手法で互いに連絡し合える場をまず持つぐらいのところから始めるといいかと考えています。ですから、協議会が発足すれば、長野同窓会長としては参加させていただきますけれど、それが実のある同窓会協議会の活躍の場になるかどうかは疑問に思っています。消極的といえば否で、積極的なんですけれど、理想ばかり追ってもしかたないんで足元をまず固めようと考えています。

**豊田高専 岡本** 豊田高専の岡本です。先程も発言させて頂きましたが、ヒューマンネットワーク高専というものは先程もお話がありました様に、同窓会と結び付けるひとつの手段であるという風に、今回はそう思って参加しています。私達の同窓会を紹介致しますと、我が校の全体の同窓会は今年で19年、来年は20周年になり、それ以前には各科毎にありまして、それをひとつにしようと発足してからそのくらいになります。

今、関東支部、関西支部、両支部をもって核としております。

全体でも卒業生は今年出て4,700名ぐらいになりますし、段々若い方が増えて来て女性も増えて来たという訳で、確かに同窓会との結び付きを深めていくかというのが常に課題になっています。会費ひとつにしてもそういう形です。

まあ、運営については、学内理事卒業生が学校に残って、助教授とかが各科2、3名おりますので、学内理事会を組織して年間5、6回は会議を開くという風にやっています。

それで最初に申しました様に、自分のところは個人的にはやっているつもりですが、全国に散らばっている人間が、全国の高専を知る機会というか、全国の高専卒生を結び付ける動きは無かった訳で、これがひとつのいい機会になるのではないかと考えています。

詳しい話は道義的な話にありました様に、これから同窓会をどうしていくか結びつきの方策はこれから協議していけばよろしいのではないかと思います。

**米子高専 矢末** 米子高専の矢末です。私も昨年引き受けたばかりで今年で2年目になります。これまでほとんど出ていなかったのを引き受けてしばらく苦しみました。今までの活動は名簿を数年毎に出すぐらいの活動しかして来なかったこと、それから私が引き受けた理由というのが、それまでの会長が遠方だったので、地元にいる者がという簡単な理由で引き受けた訳ですが……。運営する部分も資金的なこともございまして、それぞれ各個人に連絡するにも往復葉書を使うと100円掛かる訳で、それで色々諸会議をもつという各個人に連絡を出す訳で

すが、ひとつ会議をするにも相当な資金が掛かる。それで名簿を作る時に連絡はする訳ですけど、卒業時に終身会費という方法なので、連絡がしづらいので、私が引き受けた時からインターネット上にホームページをつくらうということで、準備をしております。そんな訳で団体として個人への呼び掛けは大変だと思います。各幹事さんに集まっていただくのは年1回にしていますが、何分にも卒業生はほとんど県外へ出ているという関係で集まりにくいという事情があり、会自体の活動が低調であるので、他校の事情はどうかと思い出席しました。

こういった意味でヒューマンネットワーク高専に関心があり出させていただきます。

**高知高専 西岡** 高知高専電気の8期西岡です。5年間副会長をやりまして、来年から会長です。いろいろな活動しておりますが、ネットワークの件については次期の会長だからお前行けということでまいりました。

高知高専としてはこの事について1回会議をやりまして、全面バックアップしようやないかという話になっています。それをもとに来ております。

私達が今、基本的に考えているのは、高専34期ぐらいのを迎えている訳ですが、次期会長は「10期以上にせい」ということで、今まで1期2期ということ、その橋渡しを8期のお前がせいということ、私になった訳です。この橋渡しに当たって、このヒューマンネットワークに非常に近い形のものをつくらうという構想が出来上がっておりまして、それは高知高専の中にユニックスで構築したホームページがあり、非常に重たいものがある訳ですが、それを元にして、高知高専の先輩の方で、私も電気を出しましたが、建築をやっておりますけれど、異業種で非常に活躍している方が、全国的に多いという訳で、その人間のリンクを作ろうやないかと。そしてそれに対して高専の学生が就職活動とか、授業の異業種交流とか情報交換をしようやないかと。そういうワクをつくるというのを進めています。本年中に作る予定です。その延長線上にこのヒューマンネットワーク高専があるのではないかと非常に期待をしている訳ですが。

協議会の活動とからめてお話させていただきますが、各同窓会62校の同窓会がありまして、それがまとまれば連絡協議会ができるだろうというお話ですが、これはひとつのピラミッドで、それはそれとして、非常に結構であろうと思います。

一方私達の同窓会で考えていますのは、そういうピラミッド形でなく、まさにこのヒューマンネットワークで、くもの巣状にいかにかに組めるのかなということが今でも同窓会の中での課題です。そういう風に組むために、いわゆる電子化に取り組むこと。

私の会社でもホームページを持っていますし、今の若い者はコンピュータを持って出ていく訳ですからもう10年もしないうちに過半数がコンピュータでつながっていくという風に人間関係がそういうものでつながっていく時代が来るのだと思っています。それを先取りしている会議ではないかと考えています。

先程皆様のお話を聞いていただひとつ気になりますのは、同窓会のメンバーですが、高知のメンバーは年1,000円なんです。払っていない人もいるし、急に5,000円とか1万円とか払って来る人がいますが、払っている人も払っていない人もメンバー。同窓会のメンバーなのです。これは間違いなくメンバーなんです。

このヒューマンネットワーク高専というものも、いずこの高専の卒業生でも卒業生であればメンバーであるべきではないか。基本的に全員がメンバーであるべきではないかと、そういうメンバーだということをサポートできるお金をフォローができるといいのではないかと。そういう意味で同窓会で出来て62校あって10万円づつ出し合って620万円あるのではないかという様なレベル。それから私達の会社がリンクを張る。張った分として年間3万円ぐらい賛助として払う、そういうレベルで本当の意味でフリーでネットが組めれば素晴らしいのではないかと思います。

**有明高専 重村** 有明高専工業化学科の三期生の重村と申します。現在物質工学と変わっております。

私が同窓会長を引き受けまして、10年くらいなりますけれど、やってまして、先ほどいろんなご意見が出ていましたように、お金の面だとか活動の面にすごくジレンマを感じております。

ここ7、8年来私達も同窓会として年2回会報を出しております。そしてこれが会の運営上かなり財政的にきつくなって来ています。基本的にはコマーシャル広告をもらって、それでペイする方針をとっているのですが、昨今の景気では広告料もなかなかとりにくいというような状況で、苦勞しております。従いまして会費の方から繰入れという状況でやっています。

それと、オリンピックイヤーに同窓会名簿を出していますが、これも中々購入者が増えていかないという問題もあります。こうしたいろんな活動のなかでお金に苦勞している面がありますけれど、会費はどうしているかといいますと、これは終身会費で入学時にいただいております。当初は卒業時でしたが、今は入学時にいただいております。なぜそうしたかといいますと、卒業時期に集めると、自分は同窓会に入らないという人がずいぶん増えて来るのです。それで入学時に否応なしに集めて、卒業生が正会員で学生は学生会員として、そのかわり学生会の活動にもいくぶんかの援助をして高専大会にも同窓生としても協力していくという方法でプレイバックしていくというやり方でやっています。そういう中でお金の面では重要でして、先程来ヒューマンネットワーク高専の会費の問題が出ておりましたが、私はどういうものかなという気持ちで参加させて頂いている者ですので、お聞きしていますと先程協議会の話がされた時にあいまいな部分とおっしゃいましたが、その通りあいまいでないかと思えます。

極端に言いますと、同窓会として参加してくれれば個人として参加する必要はなににもないのですよね。そこでカバーしてくれる訳ですから、そうだったら、いっそのこと協議会の方がずっといいのであって、ヒューマンネットワーク高専としては、何を基本とするかはっきりしない

とやりにくいのではないかなという気がします。

私個人としては、やはり個人参加だなど、団体として参加するのではそれも網羅しますから、個人参加は必要なくなるけど、それはやはりまずいのではないかな。それと、やはり先程お金が高いという話が出ていましたが、高いか安いかはこのヒューマンネットワーク高専がどういう事業ができるか、どういう情報を提供できるかだと思います。そしてそれに参加した人が、どう利用するかですから、その辺の環境だけだと思います。どんなに高いお金を払ってもそれを充分利用してそれを生かす人であれば安いでしょうし、どんなに安くてもそれを使わない人であれば高いでしょうし、そんなものではないかと思います。

いちばん難しい所は継続してどういう事業をどういうニーズに応じて提供するかというところであるので、そこらへんが難しいところかなと感じています。石山さんが提案しました、協議会趣旨には賛同致します。



私もかねてより今の高専制度をなんとかしなくては、これは後輩の為にも何とかしなくてはと考えています。ただ、企業の位置付けは非常に巾広いと思うのですけれど、大学に近いところに位置付けるところもあれば、工業高校に毛の生えた程度にしか位置付けをしない企業もあるのが現実ですから、これはどこかで声をあげなければと考えています。またこれは、企業に入った卒業生の成果のあらわれも一部あるんだと思うんで、そういったところもあながち平均的にはもの言えないかなと思いますが、ただ、いずれにしてもこれから高専に入ってくる後輩の為にも、高い位置付けにしてあげたいと思います。その為には名称変更も必要でしょうし、いろんな制度変更も必要でしょうし、私達の卒業した学校が社会にも認知されて永続的に残ってほしいと思いますんで、そういう面での活動というのは何らかの形でやっていかなくてはならないと考えています。



そういう意味で同窓会連絡協議会だけですと大学から流れて、また教員だけでは声を大にして言いにくい面もあるのではないかと思いますので、そういう面でも早く卒業生が校長になれる様努力して頂くことも必要ではないかと思っております。

こういうネットワークは非常に大切なことと思っております。私共の同窓会も会報を出したり名簿を出したりやっています。それから、フォーラムということで、フォーラムイン東京とかフォーラムイン名古屋とかやっております、各地区で集まって頂いているんな催しをやる様にしていますが、中々参加者が集まらない。参加してくれる人もほとんどが40才台。企業において壁にぶつかってから同窓会の良さが分かったらくる、そんな感じだと思います。

20代30代の方は同窓会などはどうでもいい、横のつながりなんて必要ないという気持ちが強いんだと思います。そういう意味では、これからは卒業した先輩をしっかりとっておかないと困るのではないかと思います。

これはおかしなことですが、同じ企業内にあれば、大学は各校単位で集まりますが、高専は高専として集まるみたいで、そういう面ではこれもひとつのミニ版かなとおもいますので、マクロなヒューマンネットワーク高専の活動をしっかり広めて盛んにしていただきたいと思えます。

ただ、会費の面は決して安い方が良いとは限らないと思えます。安くあっても何にもならないという事もありますので、若い人には出しにくい金額と思えますが、事業をやっていくには当面は必要ではないかなと感じます。広まって楽になったところで下げるなりする方法しかないのではないかと思います。

**育英高専 高村** 私どもも会費の件とか行事をやりますと参加者が少ないという点でたいんへん苦労しています。とくに日本においての場合だけだと思います。



私たち育英高専というのは、ローマに本部があるサレジオ会というのが運営しており、全部で2,000校ぐらいあり、日本では20数校が姉妹校になっています。昨年11月に韓国でオーストラリア・アジア大会というのをやったのですが、日本は主導権を握らなければいけないのに20名しか参加できなかった。それでオリンピックスタジアムでやったのですが、4,000人集まっています。

フィリピンなどは300人ぐらい来まして、そういった風に同窓会の活動というのは海外とかアジア各国ではすごく活発なのです。

金大中なんか漢字で挨拶しているのですが、すごく熱狂的なんですね。あらかじめサレジアンという信者らしいのですが、私は信者ではないので、そういうところで日本での活動はもともとむずかしいのかなとつくづく感じました。

また、我々育英高専の同窓会というのは、同窓会イコール情報センターであるということ、10年前から私は学校の方に声を強くして訴えています。一つ大きい行事としては、卒業生が講師として在校生に講演をやる。

私たちは7年前から始めたのですが、これは文部省のモデル校になっています。これはひとつの例になっていますが、卒業の為の講演、これは実質的な活動と前準備の為の活動と2つに分けてやるんです。これは結構成果をあげています。ひとつの例として報告します。

私達の学校のトップが文部省に対し、高専という名前は弱いと、専科大学という名前で申込みまして、育英専科大学という名前でいくというところまで行ったのですけれど、短大のすごい圧力でつぶされた経過があります。ですから、短大の数がまだまだ高専より多いということで大変悔しがったというのは今から3年前の現実です。

あと、私達がやっている情報センターというのは情報カードをみなさんに会員に書いても

らって、卒業生の中で一番身近な突発的な事故があった時に、葬儀屋さんとかグループ分けして紹介をする。紹介された企業が10%か5%を寄付してくれるという約束ごとをしてやる。たとえば、建築会社がビルを建てたいとか言った時には、それをバックするとかなりの額になる。そういう企業の紹介金を資金にしている点もあります。それから個人紹介もある。

個人が紹介したときには、個人にもあるけれど、同窓会にも一部バックしてもらおうというパターンでこれが情報センターです。

行事の中にあるものは、ニュースは年4回、通信費が高いので学校と半々にしてなんとか資金の節約をしています。卒業生の就職に対する案内もするし、入学に対しても案内を同窓会が主になって動いています。

学校に対しても講演会みたいなことを全面に押し出しながらやっていかないと学校の協力も得づらいという部分がありますから、こうして活動にしているつもりなんですけど、行事を計画しても参加者が少なくなってきたとおもいます。だいたい総会なんかしても300名ぐらいしか集まらないし、もっともっと参加をしてほしいということで動いています。

それから、先程言いました協議会ですが、最近はどちらかというとインターネットです。インターネットにしてしまうとそちらの方に押されてしまって本体の方が弱くなってしまふかなという気もします。

**北九州高専 入江** 9期で同窓会の事務局長をしています。本日同窓会の関東支部長といっしょに情報収集ということで参加しました。このあとゆっくり相談したいと思っております。

我々の同窓会は7、8年前まではあまり活動していなかったのですが、1期生が仕事も落ち着かれて、子供もお育てになってゆとりが出てこられて、自分の母校に対する熱き思いが同窓会を再構築しようという。1期生の入沢さんとか、本体におられる先輩の熱き思いから再出発しました。もう一度同窓会をなんとかしたいということで、20年ぐらい休んでいた訳ですが、金がないというときに熱き思いから金をどうするかとか、いろんな問題をクリアして作り出した訳です。

そうしてやり出したら、学校も皆で喜んで、今は学校を同窓会と後援会と両輪で支えている様な状況です。実質的にはそんなではないですけども、精神的な部分でつながりをもって、学校も必ず何かするときには同窓会に声をかけてくれる。そういう状況になったのも1期生の入沢さん達の思いが動かしたのです。これからどう存続させていくかということが私達後輩の使命だと思っています。やっとうちも軌道に乗って来たなという時、ヒューマンネットワーク高専ということを知って、自分の学校をきちんとして次には全国へという、私達後輩にとってみれば非常にありがたいという感情です。

話はそれますが、代表幹事の宇部の井崎先輩も恐らく北九州の高専が先に出来ていれば間違いなく、私達の先輩になっているはずですし、北九州の中間市は近鉄の仰木監督、高倉健さん

の出身の所です。もしかして背中にほりものはないと思いますけれど、そういう先輩が声を掛けられたのであれば、川すじと言ってますけれど、川すじの先輩が旗上げしたのであれば帰って皆に諮って全面的に協力しなければいけないと考えています。

私達も1期生の熱き思いによって始まり、気持ちがありがたく感じておりますので、こういう先輩の思いは真摯に受け止めて、協力させていただければと思っております。

それから名称変更の件ですけれど、専攻科構想がいつできたか私達はよく知りませんが、名称変更というのはだめだとしたら、今なんで高専が生き抜くかと、本当に石山先輩はよくご存知と思いますが、地方分権でこれから高専は国立ではなくなると言われています。

今専攻科が出来ていますが、それがなくなると高専つぶれるぞという風に言われています。専攻科をつくるためにどんどん大学から学位を持って来ないといけないということで学位の先生がいっぱい来る訳です。今まで高専で教育を熱心にやって来られた先生方も今教育だけではだめなんだと、学位を取らないとこれから居られなくなるよと、そういう風に言われています。私も会社から学校に入って、後輩の面倒だけみればいいのかと思っておいたら、学位を取らなければだめなんだと、居られないよと。いずれは県立大学になるよと、事務サイドからも呼ばれて今のままでいいかと。高専そのものも生き残りをかけているというのが現状であるというのをお知らせしておきます。

とにかくこういう熱き想いの1期生がおられて、今の私達の同窓会があるということに感謝しながら、引き継いでいきたいと思っております。同窓会を再構築してくれました入沢さんを紹介します。

**北九州高専 入沢** えらい持ち上げていただきました1期の入沢です。

やはり何も風体もなかった同窓会でしたが、皆さんもそうでしょうが、40才前後になりまして、先程有明高専の方が壁に当たったら同窓会をふり返るといってお話がありましたけれど、子供に相手にされなくなったら、また同窓会という年齢ではないかと思えます。

やはり振り返りますといろいろな同窓会の考え方があると思いますが、一生の一部分だけだと考えてあまり重きを置かない方もおられるでしょうし、私みたいに何かにつけて飲む機会があればいいじゃないかと企画する者もおるし、それぞれ高専によって違いはあるでしょうが、今横に居ります入江先生の言われましたように、高専も生き残りという局面にある。また、私の子供は私立大学に各々娘と息子が行っているんですが、必死に会社経営ならぬ学校経営に取り組んでおり、書類やらが届いて来ます。そういうところで私立だから公立だからと学校もゆっくりはしてられないなと、我々同窓会も出来る限り応援していかなくてはならないなと感じております。

**大分高専 首藤** 今日は台風で遅れてしまいました。私は同窓会の事務局長です。私達の同窓会長は1期生が30年会長です。私は7期ですけれど、卒業以来同窓会にたずさわっています。

うちの会長の考えはとりあえずこういう機会に、うちの後輩も入っていることだし、ヒューマンネットワーク高専について勉強して来い。それから、よその同窓会はどうやっているのかその辺りを聞いて来いということだまいました。

先程石山さんからお話しがあった事がほとんどうちの会長の意見と同じような事ではないのかなと思ってお話しを聞いておりました。この辺りは帰って会長に伝えたいと思っております。

こういう連絡協議会が出来れば私達は参加をしていきたいなと思っております。

また、今日の主催のヒューマンネットワーク高専ですけれども、中身を聞いて応援できることは応援しようと考えています。

私ども何年かずっと以前に、この資料を受け取っております。私も、会長も脱企業をして、全く別の仕事をしていますけれども、ほとんどの卒業生がそういう専門分野というか、高専で得た知識とかの部分で企業とか社会で生きていると思うので、非常に情報とかは必要ではないかと、会長とも話しています。

そういう中で、こういうネットワークが出来たときに非常にいいものであれば個人的にも参加するであろうし、私達も同窓会の世話をしながら資金援助が出来れば、先程高知の方から出ましたが、同窓会として何会員であれ、ネットワークに参加させていただいて、頂ける情報、覗かせていただける情報が少しでもあれば、5万でも10万でも出して、それを同窓会員に流すと、こういうものがあるんだよと同窓会として入っているんだよと、そこをのぞいてもらって、必要な人は個人会費を払ってすればいい。何も分からないところに会費を出して入っていくというのは難しいのかなと言う気がしますので、今日遅れてしまったので、趣旨等中途半端な理解ですが、そういう形で同窓会として参加できればなと思っております。

しかし、本日一番主に聞きたかったのは石山さんのお話だったので、よかったかなと思えます。また、会長の方からご連絡させて頂きますので、その節はよろしく願います。

**都城高専 尾上** 私は関東支部の事務局長として、本校の下部組織という形で、本校では2年程前から6期生が会長を引き継いでいます。

段々下の方のネットワークがとりにくくなり、求心力が弱くなっているのでも、出来るだけ下の方で会長をやり、1期生はそれをバックアップするという風になりつつあります。

関東地区としては、集まりはいい方だと思うんですが、地域性もありますが、6期生以降は九州の方にハイテクの工業団地ができて、今度は中々中央の方に就職してこないという事情があって、会員の人集めにも苦労しています。会費について、入学時に終身会費を徴収しています。支部としては年会費2,000円を集めています。会報を発行する時に集めています。これでも会員は関東支部700名ぐらいいるんですけど、常時会費を納めてくれるのは120名ぐらいで会報の発行もなかなかうまいことはいかないです。私個人としては、デザイン事務所をやっておりまして、会報の発行自体はボランティアでやっておりますので問題はないのですが、ただ、

本部の方の発行もそうですが、郵送料で苦労しています。ですから、今回のヒューマンネットワーク高専、協議会が充実してくれば、会報等によって会員に情報が伝えられるかな、それによってまた、私達の支部なり同窓会なりに目を向けてくれるのかなと期待しています。

**八代高専 福山** 1期なんですけれど、最後に設立された高専で昭和49年に設立されたので、私54年卒で1期生です。私達は若いのですが、東京に出てきてあっという間に年月がたったなと思っています。もう18年たっていて、1,000名以上卒業生を出しています。

なかなか九州まで帰れませんので、2年程前に関東・関西支部をつくりまして、私が関東支部の会長をしています。関東支部を発足したのですが、活動が伴っていない現況です。やっていることは、毎年やっているロボコンを(両国で開かれるのですが)出て来た時には鳴物をもって応援に駆けつける。その辺が限界でして、今回のヒューマンネットワーク高専が設立されたので、この趣旨を関東の同窓生にはきちんとかういうものが出来たんだよということは伝えたいと思います。

それから、石山さんの話の中に高専制度そのものという話ですが、気になっていましてところは、専攻科というのが最近できて、学位がとれるということですが、いいことだなと思っていますが、私企業にいますと、エンジニアで大学を卒業してこられるのは最近では学卒というより修士卒というのが多くなって来ている。上下関係は私は気にしないんですけど、学位をとっても、またその上にマスターがいる。企業の中ではその辺がどうしても抜け切っていないのではないかとこのところを危惧しています。一方ですね、学歴というより実力主義というのが浸透して来ているのを私の会社では実感しています。

そういう中で高専で更に専攻を出た人と、また更にマスターを出た人と道が2つに分かれてきているのがあるのか、と思っています。

一方最近では中高一貫教育とか言われていますが、高専道を歩む人たちがそういうところを優位性みたいなのがでてこないのかな。では、何かと言われてもはっきり言えないのですが、何か特色を出せば、高専あるいは名前が変わったとしても歴史が残っていくのではないかと考えています。

**和歌山高専 中本** 私は土木の1期ですが、皆様より5年遅れて49年卒で卒業してすぐ学校に教師として残った特異な部類ですが、土木に関しては僕は出てすぐ同窓会をつくって20何年になるのですが、機械・電気はつくっておらず、和歌山高専として同窓会をなんとかせなあかんということで、それぞれの同窓会をつくってもらって5年程前に連絡会というのを組織したという現状です。全国的に出て来るには体力もないし、意識もそこまで行ってませんが、たまたま名古屋で学会がありましたので、足を伸ばしてみました。土木の同窓会として来ています。

同窓会としては私は無学で、自信もありませんが、石山さんの提案されたことに対して個人的には賛同していますので、具体的にどういうことを考えているのかお聞きして帰りたいと

思っています。それと、ヒューマンネットワーク高専につきましては、意見を申し上げまして議事を妨げまして申し訳ありませんでしたが、個人的には賛成で、本日入会して帰ります。

**旭川高専 村中** 同窓会長の中尾が来るはずだったのですが都合が悪く、関東支部というのがありまして、会長は台湾の方へ出張です。私が代理で、ヒューマンネットワーク高専に個人的に興味があって、友人に軒並声を掛けたんですけど、急だったので、皆忙しく、都合がつかず、一人で参加しました。

今日、皆さんお忙しい中でこうして来られるのはどういう方がおられるのかなという思いもありまして、会長の代理という事でしたが、個人的な興味の方が強い参加です。

今日ちょっと、お話したいのは、同窓会として30年近くなるんですけど、私達にも色々問題があり、このままではどうしようもない、何とかしなくてはいかんなどということで、私も協力している1人なんですけれど、皆さんもどういう問題をかかえているのか、どうしているのか知りたいと思っています。

それからヒューマンネットワーク高専というのは、趣旨というのが何なんだろうということもあって、先程会則説明聞いて少しずつ分かって来たような気がします。

ところで、皆さん青葉技術会をご存知ですか。どなたもご存知ない様ですが、実は青葉技術会というのは東北大学の同窓会の一つの組織で事業内容というのがまさにヒューマンネットワークなんですね。いろんなところに就職しているんですけど、基本的にはリタイヤした人を中心にして現役の人にも実際には活躍しているんですけど、どんな事をするかという、うちの会社に来てコンサルタントをしてくれるんですね。いろんな名前を言わないで、青葉技術会としてその人特有の技術をアドバイスしてくれて、専門分野が違ってもまた別の人が来て、その専門でコンサルタントしてくれるんですね。技術者同窓会です。あとは、講習とか講演してくれるんです。まあ、ヒューマンネットワーク高専も似てるなあということを感じたんですけど、事業も非常に面白そうなので、私も会員ではないですがさっき拍手して1票投じたんで、これから入会していろいろ協力していきたいなと思っています。

**函館高専 藤嶋** 函館の藤島です。函館高専の事を申し上げます。

私達は学校がスタートした時から同窓会が完全に参加の形でできていました。これは1期生が同窓会長をやっていますが、苦勞してつくり上げた訳で、今でも1期生が理事クラス、若い人に実務クラスをやってもらっています。

関東の方は16年に関東支部ということで、2年に1回総会をしていまして、実は先週の土曜日に第8回の支部総会がございまして、事務局は期待していなかったのですが、300名近く集まりました。1期から30期ぐらいいまでですね。会議の方は、事務局が毎年1回名簿を発行していまして確かに苦しいですけど、企業からコマーシャル等いただきまして、運営しています。

函館高専としては、同窓会がまとまっていますので、ヒューマンネットワーク高専に入るの

は個人の問題と思っています。これは、総会にかけることが時間的になかったものですから、私が個人的に聞いて、函館高専としては対処をきちんとしましょうということになっています。

逆に言えば、私なんかは同窓会の方はやっていただいた方ですから、『ああ、やっているから行こうか』という組でしたが、先程から皆さんのお話を聞いていますと、たいへんご苦労なさっているなど、私は函館だけの問題ではないだろうという意識がございまして、当然函館としてもきちんと協力していく形となるでしょうが、それは同窓会の総意として明確にしていきたいと思います。



## 異業種交流の運営及び産学交流について

**井崎代表幹事** 極めて時間がございませんので、短く説明致します。

よく懇親会とか同窓会とかで、こういう事がよくありますけれど、せいぜい出てきても2、3回に終わって、それ以上発展しづらいものですが、一方社会人になって10年以上過ぎますと、ひとつは自分のルーツはどこなんだろうということ、公私に渡り社会的に何か発言し、自分も存在感があることを確認したいという事があると思います。

私はヒューマンネットワーク高専はとにかく会員を増やすというか、連帯意識をもっていくということだと思いますが、本部で集まり東京で集まり、地域で集まりということで単なる茶話会というか交流会にとどまらず、今やっている仕事や個人の生活に何か意義がある、反映させる様な活動をやっていけないかということで、異業種交流を推進させたいと思っています。ヒューマンネットワーク…人との交流、文化的な会話が、情報の交換とそれを全国各地から出身された高専というルーツでもって、キーにしてやっていければと思います。それで、ちょうどお手元にある「赤とんぼ」にあります、昨年4つの分科会がありまして、その中に異業種交流の分科会でやりましたが、だいたい皆さん思っておられる事が一緒ですので、本日は他の議題で時間が不足してしまったので、この時間はおあずけにして、また懇親会の場がありますから、そちらで盛り上げて下さい。本日は同窓会連絡協議会を立ち上げるというか、こういうことを強化していくことは先決なのですが、我々今日出席されている方は比較的卒業の早い方がおられますので、後輩続けよと。具体的にこういった技術があるけれど、販売したいが販売のネットワークを持たない。それで個人で会社経営をされている方が居るんですが、中々うまくいかない。こういった折角立ち上げて来るんですから、そういうことを心の中で持って参加してくれば何か前に進むものが出来てくると考えています。

それから、産学共同につきましては、まず会員同志の異業種交流から、そのあと産学共同というのはできていくと思います。

同窓会の連携が深まれば各校に必ずOBの方が先生として勤めておられますから、交流をはかっていけば「こういうことを事業化できないものだろうか」「こういう情報技術に関するものがないだろうか」と発展していくものと思います。

それから、時間を借りまして、私宇部高専を出ていますので、宇部高専の事情をお話ししたいと思います。

ちょうど6年前の5月に、学校ができてから30周年の時に全卒業生が宇部で集まりまして、その時110名程になりました。それが第1回でした。私自身は卒業してからずっと関東にいるということで、東京に来てから25年になりますけれど、電気の同期会をやりまして、それだけじゃもったいないということで、電気の上下を集め、それから本部の方が電気だけで集まってはだめだということで、機械、化学等々集まって4年前に東京でやって136名が集まりました。

これまで3回、大阪では関西支部で毎年11月にやっていますけれど、30名40名集まっています。それまでに本部の方で、前はデータベースというか出版物を、年に1回しか発行していませんでしたが、紙出版では残らないということで、コンピュータの中に入れて会誌の発行、名簿をデータベースの中に入れました。とりあえず、宇部の場合は整ったということですが、やはり引っ張っていく人が居ないということで、関西でも東京でも九州でもいろんなところに卒業生がいますから、ヒューマンネットワーク高専ということで、他高専の方と交われば刺激されて盛り上がっていくと思います。今日は私達の学校から3名が参加しています。



Welcome to

# 長野高専同窓会

1997年8月5日更新

This site is a Nagano National College of Technology alumni association  
推奨ブラウザ: Netscape Navigator 2.0/Internet Explorer Version 2.0 以上

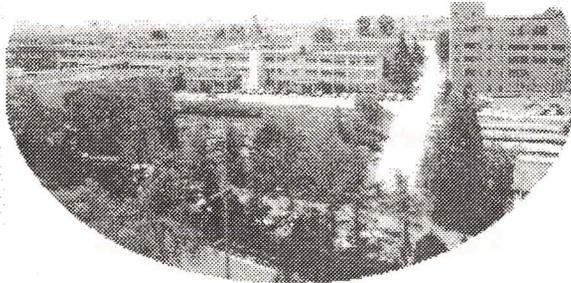
名誉会長  
あいさつ

同窓会長  
あいさつ

OB  
近況報告

平成9年度  
同窓会総会

事務局  
役員名簿



同窓会の  
あゆみ

卒業生関連  
ホームページ

事務局より  
お知らせ



同窓会事務局およびこのホームページに対するご意見は  
[dousou-office@cc.nagano-nct.ac.jp](mailto:dousou-office@cc.nagano-nct.ac.jp) までお寄せください。

インターネットについて

**田玉** インターネットホームページ開設案に関して、長野高専の舞田さん、松原さんと続けてお願いします。

**舞田** 長野高専の舞田でございます。

先程同窓会としてお話させて頂きましたが、本日は我校から事務局長の常田も一緒に参加し

ております。細かい他の活動の話は省略させていただきますが、長野高専は昨年の秋、ホームページをつくりました。ありきたりではありますが、これは高専の卒業生のお互いの情報交換ということで、これから卒業者は増えていく訳ですが、会報の郵政省にかかるお金が増えていくので、これからは電子化しようということで、私が提案しまして、このホームページをつくりました。中身はお帰りになって開けてみていただきたいのですが、長野高専のサーバーの中を借りて開設しました。

これは、インターネットというのは距離を克服するもので、B.B.S.田玉さんのところで運営されておりますが、パソコン通信ですと電話料がたいへんという話もお聞きしましたので、ぜひインターネットを使ったらどうかという話をさせていただきましたところ、今回ご紹介という運びになりました。

長野高専だけの情報では面白くないということで「同窓会名簿システム」という名前で同窓生間のインフォメーション・交換の場にしたい、メール交換ができて、名簿の中にいろいろとり込んで同窓生が何をやっているのかわかる。どんな仕事をやっていますというのを自己紹介の欄に入れていきたい。それを見てお互いが役に立てば異業種交流のお話もありましたし、同窓生の仕事の面でなんとか役に立つ場があればという話がありましたが、その一助になればということで計画しました。

バーチャル同窓会という形もありますし、すでにシステム的には出来上がっている訳ですが、あとはサーバーをどこに置くかという事を検討しています。学校のサーバーを使いたいのですが、お堅い高専ですので、書込みが問題になるという事で、私は構わないではないかと言っているのですが、理事の方で心配をしています。学校のサーバーに外から見るとはいいけど書き込むのは「どうかな」という心配もありますので、別置として考えています。

こういったことで、システムもある程度出来上がっている状態ですので、ぜひ他の同窓会さんでやってみたいという方がおられれば、お手伝いしたいと思っています。

私達も全国に散らばっていて、なかなか人が集まらないのでバーチャル同窓会にして、お互いの消息を確かめ合う様なシステムにしたいと考えています。

あと、名簿の関係は読めますので、名簿会社に使われるのではないかという危惧がございますが、すでに高専の名簿は名簿会社に出回ってしまっていて、皆さんのところにもかなり電話の攻勢がきているのではないかと思います。私なんかも週に1回は利殖の電話が来ます。これはもう避けられないのですが、一応パスワード等設けて、同窓生以外はのぞけないというセキュリティはつけてあります。同窓会は見えますが、名簿については同窓生のみという形にしてあります。

(<http://www.nagano-nct.ac.jp>)

**松原** 続きまして長野高専9期の松原と申します。私は事務局の地元に住居しますので、昨年

幹事会に出席させてもらい、その後設立総会には出席できなかったのですが、代表幹事の田玉さんのB.B.S.も運用していますので、こちらのお手伝いをしなければと思っていたところですが、昨今、流れはインターネットのホームページに皆の意見を交換する場をつくっていいのではないかと、これはまだ作業を始めたところですが、田玉さんが基本を作ったところへ私が手を入れたということです。これから組み立てながら育てていくというもので、1ページ目に設立趣旨、パンフの内容を移してあり、「赤とんぼ」を抜粋して会報の中身を乗せてあります。そういう内容を公開するものです。

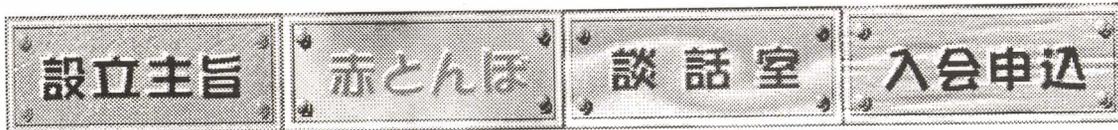


**What's New!**

**事務局ニュース**

9月5日 東京事務所／(仮)開所式及び交流会ご案内

\*関東在住幹事会議開催 \*定時総会開催 \*設立総会開催

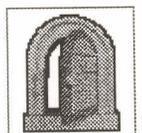


E-MAIL: [hnk@asama.or.jp](mailto:hnk@asama.or.jp)

ヒューマンネットワーク高専事務局: 1997.June.28

BBS(HNKネット) 0268-23-5635

掲載協力: 浅間メディアサロン



あと、入会申込書のフォーマットを掲げて、問い合わせ、申込み等できるようにしたいと考えています。

また、最近のニュースなどのボタンも設けて本日の記事等動きを早く皆様に伝える手段にも利用出来るようにしたいと考えています。

今は地元マルチメディア関係の研究会がありまして、大学の先生とか有志のメンバーで始めて、自前のドメイン名をとりまして、サーバを設けることができましたが、その中に少しスペースを借りまして、そこに掲げて動かしています。

この研究会の名称が浅間マルチメディアサロンといいまして、そのEメールのうしろについています。

<http://www.asama.or.jp/HNK/>

この中に電子メールがありますので、ここでご意見お問い合わせ等していただければ自動で田玉代表幹事と、宮下事務局長と補佐している私のところへメールが届くようになっていますので、またご返事できるようになります。

とにかく、今までの設立総会・幹事会・本日の定時総会等の催しをこちらから外部の紹介をする、こういう活動をしていますという存在をお知らせするという表向きの方がひとつ。それから外からの問い合わせ、登録してある会員の名簿を見られるとか、相方向の使い方を考えています。まずは、発展していくという段階ですが、また皆様のご意見をお伺いしながらやっていきたいと思えます。

## 組織拡大の提案について

**藤嶋代表幹事** 函館の藤嶋です。時間がなくなって来たようですので、かいつまんでお話しします。

私は始めて事務局の方へ飛び込んでいったときに、まずどういう趣旨でやるんだと聞きました。先程の同窓会の方からもヒューマンネットワークと同窓会、これをどう明確にするんだという話がありましたが、要するに、私も機械1期で31年前に卒業して社会に出たら、前がない、先輩がひとりもない中で、遮二無二生きてきて、振り返ってみたら現在の在校生、また若い卒業生も何かもやもやした部分があるんですね。我々、先輩として何を後輩にしてやれたかなという反省もありまして、企業内では後輩の面倒はみれますが、私達のように自分で事業をしたり、トップを出しているいろんな展開したりしている者は、自分はいいいんですが、高専として考えた時に、函館だけしていればいいというものではないだろうと、先程からありましたように高専としてのアイデンティティは何なんだろうという大きな命題にぶつかりました。

私は会社に入った時は年が若いから給料は少し安かったけれど、待遇とすれば大卒と同じで、後はやればやっただけという感じで恵まれていた方でしたが、技術屋とすれば実力で勝負するしかないという事もありまして、じゃあ、このヒューマンネットワーク高専を本物に仕上げるにはそれぞれ皆目的が違うでしょうし、こういうものをやってほしいとか、こうだああだというのがあると思います。本日お集まりいただいた皆さんの本質にあるのは「高専」。これを本当の意味の一つにしたいという強い想いがあると思います。

私もその想いかられました。それでは具体的にこうやるんだよという事業計画を明確に示して初めから全部出来る訳ではないのですから、ひとつひとつ実現していくしかないだろうということで、事業計画の案をまとめてみましたので説明致します。

### 1) 各種統計

先程の石山さんからもありましたが、まず今振り返ってみて我々高専卒業生30年出して来てその実体はどうかといいますと、同窓会がはっきりしているところは名簿を見れば誰がどんなところでどんな仕事をしているか分かりますが、高専全体としてまとまった統計が無い訳です。ひとつはそういう統計をとって高専生はこれだけの仕事をやって、今の工業化に役立っていることを示すというベースが必要だろうということでこの統計、これをとる。

### 2) 異業種交流及び連帯

次に先程井崎さんからありました異業種交流及びその連帯、共同化

あるスペインの5万人ぐらいの町なんです、ここが今世界で非常に注目されています。企業連合体という社員が全部株主となってそれぞれの役目を決めていろんな業種を連合しているという素晴らしい組織があると聞きまして、ひとつはこういう様な考え方のまとまりができるのではと思います。

### 3) 同業種交流及びマイスター制連帯

これはドイツのマイスター制、日本の企業の場合どうしても足の引張り合いというのが目に付きますが、ドイツに限らずヨーロッパ企業は同業者が非常に仲良く手を組んで、それぞれが成り立つ様な動きができています。日本も将来、技術大国として本当の意味で生き残っていくにはこういう様な事が必要ではないかと、高専の場合にはそこらへんがひとつマイスター制という考え方で横に一本、企業という縦に一本ではなくて、高専ネットという横のネットワークができないかということで、ヒューマンネットワーク高専そのものになっていくと思っています。

### 4) 技術情報センター

先程ありました高専卒業生がどういう仕事をしているかということも大事なんですが、卒業生が、じゃあ技術屋としてどういう仕事を残したのかということ、これは論文もあるでしょうし、特許もあるでしょう。高専生の実情として、こうこうだよという技術情報ベースでたとえば後輩とか必要な情報が見れるこれは本来ならばインターネット的考えで、オープンということなんですが、我々がヒューマンネットワーク高専が本当の力が付くまではやはり会員だけのクローズの状態、あとは秘密保持の問題もありますから、会員がアクセスできて初めてこれが本物であるという形の情報センターこれが大事であろうと思います。

### 5) 企業情報

先程サーバの話が出ましたので、各高専・高知さんからリンクしていますが、パソコンで共通してやれるものと大事な秘密情報と会員情報、こういうものは独自のサーバをもってやるしかないだろうとその予算化も考えています。

それから、先程から会費の問題とか会の運営という話が出ました、お金が無くてはできません。しかし、この会そのものは営利事業ではありませんから、かといって個人のボランティアの資金でどれだけまかなえるか。それから先程の1万円の入会金と年会費6千円がこれで会員各人にメリットがあるというものに仕上げ始めて始めて会員も増えると思うのですけれど、ただそれだけでは成り立たないだろう。会員を集める為の今の先行的なネットワークをつくったりサーバを構築したりそのソフトをきちんといろんな検索できるデータベースをつくったりしなければならぬ。その為に先行的なお金が掛かります。そこで、現在の高専を知っている企業は全国数千社で実際に卒業生が入っているいろいろないい仕事をしていると思うんです。特にNTT関連では4,000名以上いますね。今年も138名NTT関連で入っています。こういう企業に協賛というか、広告費がそれぞれのお金の出し方があるでしょうから、ここらへんをきちんとヒューマンネットワーク高専の趣旨をお話して協賛してもらおうと、そこでケースバイケースになりますが、30万円～50万円くらいの入会金とか、広告費とか、ここでも企業ベースのデータベースも構築できますので、入力して整備します。

その企業が今どういう製品をもっているかという様な新しい技術情報がアクセスできるというものとか、企業がどういう事を考えてどういう方向へ行きたいとかの企業ピーアール、これをサーバ上で検索できるという様なメリットを理解いただいて、協賛してもらうことを考えています。

#### 6) 産学共同事業・開発プロジェクト

それから、企業との協賛ということになります。産学共同には高専そのもの、学生そのもののレベルを上げないことには企業も開発を頼むという風にはいかないの、なかなかむずかしいと思います。それにはOB、先程の青葉会のようなOBの有志がいま言った情報ネットワークの中でこういうお手伝いができますという賛同を得て、それに基づき企業の研究開発を受託して学校をどうするかとか、ネットの中で手をあげるとかしていく形で産学共同のベースになるものをつくりあげていくしかないのではないかと考えています。

#### 7) 高専企業プロジェクト

例えば私は今年50才になりますが、大企業の方で定年退職というのもあるでしょうし、退職前に独立したいなという方もいらっしゃいますが、全国卒業生が25万名、この中で企業家としてやりたい方もおられる。やろうとしたら企業運営をしていくのはたいへんです。お金の面、人の面、いろいろありますから、それで、ヒューマンネットワーク全体がカバーできるようなベースをつくっていけば、賛同した方がひとつの人材ネットワーク、技術情報だけではなく、実際開発から物作り好きな人、こういう人がひとつのグループ化されれば、もの作りに対していろんな仕事ができるかなという事で、具体的にはこの会が大きく育ってからですが、面白いのではないかと思います。

#### 8) 新卒就職の一元化

ある高専では、卒業生を企業に配れない程求人が多いある高専では、例えば地元企業なんかが少ないところでは他の地域にもっていくしかない就職教官が苦勞しているところが結構ある様です。こういうものも、今の企業ネットの中で企業情報をご紹介できるのではないかと考えています。

#### 9) 講演会・座談会・研究会主催

私にこのヒューマンネットワーク高専を紹介してくれた函館高専の後輩の、ヤンマーディーゼルに9年勤めていた君が戻って講師をやっているんですが、彼が言うには、帰って後輩の勉強をみればいいやと思って入ったけど、子供がなかなか勉強してくれない。先輩たちは先生がほうっておいても勉強をやっていた様に聞いているけれど、今の学生にはどうやって教えるか、どうやったら興味をもってもらえるか、苦勞しているそうです。

今だから言えるけど、私だって学校の授業なんてたいして面白くなかったと思います。けれどこの30年いろんな技術を学んでみて、今は興味をもってもらって、そっちの方を向いてもら

う様な教育にしないと、当たり前のカリキュラムをやっていたのではそれこそ高専の特殊性が無くなるのではないか。それに対して高専のOBなどが特別講師、特別講演などのボランティアの形でどんどん外の実業の血を入れていく。これはお手伝いできますよと話しまして、その話のあとにこのネットワークになったんです。1校のOBと言ったのでは血は同じですが、全国62校カバーしていけばほぼ全ての分野をカバーできますので、そういうことも高専の学生に教えること、高専全体が自分たちのパワーを見つけることによって成り立つのではないのでしょうか。

#### 10) 出版

こうして、この中から発生することによる出版。これが事業としてどんどんいける様になれば一番いい形ではないかと考えていますが、これを押し進めていく。

#### 11) 各種カウンセリング

これはプロの領域になってくるかと思いますが、30年は長い様ですが、他の大学の様に歴史のあるところから見ればひよこみたいなもので、まだ若いですから、精神のよりどころといった面がいまひとつ欠けている気がします。従って、このヒューマンネットワーク高専の本質はここにあるべきだなと考えています。

若い卒業生が集まる様な、何かあった時にここに相談すれば答えてもらえるよという様な形、あるいはサラリーマンから独立して事業をしたいという様な時に、それなりの経験をもったコンサルティングをきちんとしてもらえる。そういう様な機能をこのヒューマンネットワーク高専がもっていければいろんな分野に対する会員をきちんと捕獲できるのではないかと考えています。

これを全部実行するという事は大変なことです。大変な事ですが、この中で優先順位を決めてしなければならないことを、一つづつやっていくしかないだろうと思います。それには当然予算ということもあるでしょうし、数字はあえて出してありませんが、卒業生25万名、在校生5万名として毎年1万名づつは社会に出てきます。本日も21校参加願っています。

まだまだ積極的な動きをしていない中で、皆様これだけご賛同頂いて若しくは興味をお持ちになっていらっしゃる訳ですから、今スタートしたとして、来年の6月、この1年で参加校、こういう表現は難しいですが、同窓会としてこういうものを認めるよという形、個人で参加したい人はしていいよという同窓会の形は恐らくもらえると思うんです。こういう同窓会を25校1校当り80名参加して頂く各期120名として1～5、10期ぐらまで声掛けて、各期8～10名、クラス2～3名となりますのでそう難しい数字ではありません。そういう形で次期は50校、最終的に3年後には62校全部参画して頂く。参画という意味は石山さんの連合という考え方もありますが、理解して個人会員として入っていただけるということの後援するということですね。

先程、北九州の入江さんもおっしゃっていましたが、これはやはり、その意識をもった個人

が自分を高めることを含めて高専自身を高めようと、その意識を持った方が率先してやるべきだと思うのです。3年制にして入りなさいとか、そういう問題ではなくて、問題意識をどう持たせるか、ということだと思うのです。広告活動、PR活動もしますけれど、やはり自主的に入って頂くという形がいちばん望ましい訳です。それには先程申しました、事業計画の中で、私はこれで入るメリットがあるのだと、俺はこれで自分のできることをしたいんだという魅力を出すことによって、この数字を実現して、会員が段々増えていけば会費を落としていくことは可能ですから、スタートして1、2年は方針通り、入会金1万円と年会費6,000円というような形でその倍くらいを企業からなんとか協力頂いて、運営していくしかないのではないか。高専OBで独立してやっておられる方、25万名の中で1,000名や2,000名ではない様な気がします。

私も小さい会社をやっていて、貧しいですけど、10万円や20万円くらい出せるのではないかと思います。大企業さんからはネットワークをよく御理解頂いて、30万円とか50万円協力してもらえば、結構資金は集められると思っています。

それも事業計画の中できちんと協賛するということができただけのことですが、それから会員自身、この会に入ってヒューマンネットワーク高専はメリットがある。これがはっきりと分かる様な実績を示してやらなければならないと思います。

あと、細かい数字は拡大を具体的にしていく中でやることなので省略しますが、まず、各高専の方をお願いしたいのはヒューマンネットワーク高専の趣旨というものを私なりに事業計画を出しましたが、その本位の趣旨をみなさんにまずひとつ高いところをお持ちいただいて、それを軸にみなさん仲間づくりをしていこうとそういうことでご協力いただければ不可能なことではないと思いますので、よろしく御協力をお願い致します。

**司会 田玉** ここで先程来ヒューマンネットワーク高専の会則のことですが、代表幹事で相談を致しました。まず、会の閉鎖性の部分で問題になりました第8条の3項、これは削除致します。

入るも自由、出るも自由、その中で自分なりにメリットを見つけた人が参加して来て下さいという形にして再提案致します。また、第9条会費に関しましては、現状では本日この会が終了しましたところで底をつきますので、本日入会頂いた方の入会金が明日からの資金となります様な事務局としても青息と息の中での運営なので、これは検討事項として引き続き幹事会及び代表幹事会で協議致します。とりあえずは今藤嶋代表幹事の説明の中にありました様に、入会金1万円年会費6,000円を続けていきたいと思っておりますので、この件はこのまま提案してご承認頂きたいと思っております。

6条の会員の件ですが、基本的には個人参加とします。それと同窓会に関しましては同窓会の団体参加というのは立案の時点では余り具体化していませんでしたので、検討を加えてありません。特別会員とか、情報の公開とか、そういうものは含めてありませんので、6条9条を懸案事項として幹事会におまかせ頂くという付帯事項をつけて、これを承認していただきたいと思い、再提案を致します。

**議長 横澤** ただいま田玉代表幹事より再提案がありました件につきまして、賛同頂けますか。（拍手賛同）

正会員でない方もいらっしゃいますが、全員の了解を頂きました。ありがとうございます。再び討議に戻ります。

残りの時間30分を切りましたが、参加頂いた皆様のうちまだ発言がされていない方を順にご氏名致しますのでお願いします。但し、長野高専から参加の会員の方は時間がありませんので勘弁をして頂いて、一通り感想をお願いします。

## 発言

**旭川高専 田川** 今日会長は来られていないので、同窓会は村中さんの方で発言がありましたのでその他の件で、前回より私が参加させて頂いたときと今回、会社を変わりましたが、前はマルチメディア関連の企業にいまして、異業種交流の分科会で発言させて頂いたのですが、あの後、長野の坂本さんと3回程会いまして、NTTリースの方だったので、企業を紹介してもらったりして、非常に協力をいただきました。こういう会がなければ絶対に有り得なかった事だと思います。ただ、本業の方がベンチャーでしたので、変わらしまして今は久保田システム開発の方にいます。主に農林水産省の換算生産システム、全国38の都道府県に納入しています。その関連でコンピュータ関係はシステム開発と企画をやっています。それからインターネット関連でNNネットというのと農業農村整備情報センター、アリックネットというのがあるんで

すけれど、それで農学土木に関する新技術のデータベースをインターネットで構築しています。

それを新しい工法とか情報があればデータベースに登録してオラック上で運営して会員になればIDとパスワードでインターネットの画面が見れるようにする、そういう開発をやっています。

多分先程来お話の秘密情報を会員が見れるところには何かに協力が出来るのではないかと思います。

**一関高専 小野寺** 仕事は個人事業所みたいな感じで基盤とかをやっていますが、卒業して上場の企業とか大きな会社に入った経験がありませんので、技術の立場で何かをしたいなという時にそれに必要な人材がなかなか自分の周りにはいないのです。それで、ヒューマンネットワーク構想をお聞きした時に何かそんな事をやるのかなということで、入会して総会に初めて出てみたんですけど、小さな技術者が何かをしようという時に周りにグループなり団体なりがあれば、もっともっと日本も進むのではないかなと実感しています。

ヒューマンネットワーク高専が大きくなって、全国の同窓会が集まって来て、どんどん動く様な会になって欲しいと希望しています。

**宇部高専 渡部** 初めてこういう会に出席して、会の趣旨を理解している訳ではないですが、異業種交流とか、各種コンサルティング活動とかに興味を持っています。同窓会そのものについては、学閥を作る様で関心しませんし、遠かったりして行っておりません。私の甥が今年都城高専に入りまして、年齢的には36才ぐらい離れているんですが、彼にとって私は高専の先輩だという意識は持っていないみたいで、私はいいことだと思っています。昔の高専はつらいこともあったのですが、一面いい思い出もしました。けれど今は違うと思いますので、彼の将来には関心を持って見えています。そんな感じの連帯感しか持っていませんが、この会についても、どういう方向に進んでいくのか、関心を持ってながめています。

**宇部高専 吉田** 実は隣の渡部さんからいきなり電話があって、同窓会と勘違いしてこの会の名も趣旨も知らずして突然の参加です。皆様方のご熱心の会議を一時間お聞きして個人的にはこの会の活動の中でも、ベンチャー企業を育てる、企業家を育てるような活動を期待できるのではないかと考えています。皆世の中あげて企業家ではありますが、とくに地方に行きますと、それ程の高レベルのアカデミックなオーガニゼーションはないものですから、ある意味では期待できるし、これからの若者は失敗もしますけれど、何割かは成功されるでしょうから、そういうことを期待できるのではないかと思います。

長野高専さんはずいぶん早くから取り組まれている様子ですけど、掲げられている事業内容、産学共同・異業種交流等望ましいというか、夢がふくらむというか、期待できるものと思いますと同時に昨年より始まったばかりとお聞きしましたが、これを維持していくのも大変なのかなとも思っています。

私自身、役所に勤めていまして、皆様から見ますと、全く異業種に位置するかもしれません。役所は非難もありますが、仕事をさがしたいとか、こういう話はどこにあるのかそういうところは割合楽なところがございます。そういう意味で、もし何かお役に立てるかどうかわかりませんが、別のネットワークとの接点にはなりうるかも知れません。

**新居浜高専 成岡** 昨年10月の1、2ヶ月前パソコン通信をした際に知る機会がございまして、入会したのですが、その当時は時間がありまして、色々出来たのですが、最近職場が変わりましてから、忙しくなりまして、中々会合に積極的に出席出来なくなってしまったので新居浜の同窓会長の方へ引き渡しをしようと思ひまして、同窓会の御理解を頂きましてヒューマンネットワーク高専との接点を持つということになった様ですので、私個人としては監事で参加ということで協力していきたいと思ひます。

**大分高専 大平** NTTに入りまして21年になります。最近10回目の転勤をしまして、その都度新しい仕事に就いています。その際に技術的に困ったりした時、あるいは、北海道の方へ販売で移った時にNTTには月曜会という高専卒業生の会がありますが、その名簿をパラパラとめくって「すみません高1の大平ですが」と言いますと、函館の高専の先輩が「おお、そうか」ということで、別にその方が助けてくれるという訳ではありませんが、どういう機械を売りたいんだと、そういう事ならこの人に聞けばいちばんいいアドバイスを受けられるよという突破口を開いていただけるということで、技術的に困ったときにも同様助かります。この時に私が思いましたのは、皆さん、北海道でも九州でもほぼ同じ様な環境ですから、そういう様なことが出来るのだと思ひます。

大学の場合はそういう形にはならないと思ひます。そうなんですけれども、先程15人ぐらしか同窓会に集まらないところもある様ですが、25万人おられるということですが、40で割れば単純に言えば1県に5,000名ぐらのおられると思ひますが、自分の学校の名簿しかもっていないのですから、例えば大分には他校の方も大勢おられると思ひますが、名簿をもっていないから私はそういう方がおられるのを全く知りません。

先程カウンセリングというお話がありましたけれど、若い人が悩んだ時、そういう方があの大分のNTTのでっかいビルに行けば、大平というやつが居るというのを知らなければ、相談のしようも無い訳ですね。

この会の目的のところには会員相互の交流に努めると書いてありますが、これは宮下さんあたりの体験に基づいている様ですが、この辺あとで聞いてみようと思ひています。この会員相互の交流の下地をつくるのがヒューマンネットワーク高専の仕事だと思ひます。具体的にはどうすればいいかということですが、先程長野のホームページの名簿のリストにありましたが、ああいうものを各同窓会がつくるなり、お手伝いをお互いにやってメインのデータベースをヒューマンネットワーク高専に置いて、例えばそれで大分の場合、大分の見る人の地域のキー

で抽出してあげて、逆に大分高専の同窓会に送り返してあげる、そういう風にすれば大分にいる5,000人の中の他校の方も大分のデータベースに入るので、お互いの交流のキーはできると思います。

ここのところを私が言いたいのは6,000円払って正会員になっていますが、これは宮下さんの意気を感じて私は寄付金のつもりでやっているんですけど、基本的に卒業生は会員だと思っていますけれど、それではやっていけませんので、会費はいただいて、同窓会連絡協議会のような形が出来て、各校の同窓会が5万円10万円なりの支援をして、あと名簿の支援も生データを出すという様な方法で協力して、あと企業である程度成功されている方は寄付金を出すというような形でやって、あといろんな事業計画をなるべく独立採算でやって儲ける必要はないと思いますが、やっていっていろんなスクールのある人とか、お金がある人が助け合ってやっていけばいいのではないかと思います。

**長野高専 常田** 長野12期土木常田でございます。

私は同窓会の理事長という事で、実務の方を担当しています。長野高専の実状は会長の話にもありましたように、総会に出席する方が少ないという傾向がずっと続いています。その原因は同窓会に同窓生が考えているような利用価値があまりないのではないかとということかと思ひ、その点を昨年ホームページを開き情報公開をして同窓会の利用価値を高めていくという方向で進めています。

ヒューマンネットワーク高専との関係につきましては、最初の時に？マークが付く様なあやふやな関係がいいのではないかとのお話もありましたが、お互いにうまく情報を交換し合えるような場として各校の同窓会は各校の同窓生の役に立つ、ヒューマンネットワーク高専は全国の高専の卒業生の役に立つという立場に立っての情報公開の方向で協力し合って行きたいと考えています。

**長野高専 滝沢** 24期です。この中で私がいちばん若いですが、会社でも上司に当たる様な方、へたすれば私の父親にも当たるような方のお話を聞いているのですが、若者を代表して発言させていただきます。

私は卒業して高専生の集りでもある技術科学大学に進みました。先程も少し触れられましたように、マスターまで出ていますので、マスターの目から見る企業、高専生から見る企業、2つの目をもって企業で働いています。

正直いいまして、マスターを出ているからといって、マスターの仕事をしているかと言うと、そうではないし、高専生がマスターと同等の仕事をしているかという別だし、私の目から見ても今の高専生はもの足りないし、エンジニアではなくなっています。どちらかと言うと、メンテを担当している人、メンテ屋の様なところがあります。ですから、本当の研究開発をやる為に会社はとったのかな、へたすると専門学校と間違えているのではないかなという風に考

えてしまうときもあります。私は会社ではマスターとして採ってもらったのかなと思っていますが、私の会社では高専卒がたいへん多く勤めていますので、私は先輩方を慕って、時には教育して頂いて今の仕事が成り立っていると思っていますし、私より年下の後輩がいるのですが、もっと目立ってもいいんじゃないかなと思ってしまう時もあります。

とかく、長野高専の学生さんはみなさん真面目というか、高専自体真面目なんですけれど、真面目すぎちゃって言われた事しかやらないので企業も物足りないと思っています。実力はありますし、短大卒の人と比べても充分力はあるし、大学生よりもずっとずっと勉強もしていると思うんです。私大学に居たから分かるんですけど、もっと頑張ってもらってもいいのではないかと思います。これが私、マスターから見た目と、あと同窓会へ若い人が参加しないという話が何回もありましたが、私達からみると先程常田先生がおっしゃられた理由の同窓会にはメリットが無いという思い込みが初めからある様な気がします。私もそう感じる時があります。同級会すらやっていない時代です。メリットがあれば参加してもいいと思っています。本当にメリットが出て来れば自然と集まるし、私達若者も行っても意味があるのではないかな。ただ行って会計報告のお話を聞くというのではなく、何か自分にとってメリットがあれば、自然と参加できると思います。

私、今日この総会に出た理由は、一番そこにあって、今自分のやっている仕事いかにを問わず、何かメリットが無くては当然高い会費ですので、私にとっては充分高い会費です。これを続けて払えるかという、メリットがあれば続けますし、無ければ先程そういう規約が出来たので選択します。

もしプラスになる様であれば、友人を募って一緒にやろうよと言うし、今はまだ分かりません。もう少し様子を見て、インターネットなどで会報とか見てどの様な方向で進んでいくのか、それ次第だと思います。

**同会 田玉** 時間が無くなってしまいました。長野の方、名前だけの紹介で許して下さい。4期の内藤さん、マイクを持って飛び回ってくれました。同じく4期の降籬さん、受付をやってもらいました。議長の横沢さん、同じく4期の大工原さん、それから2期の佐藤さん、佐藤さんと大工原さんは草創の川越の佐久間会から通して無欠席の参加です。ありがとうございました。

忙しくまとめさせていただきます。ヒューマンネットワーク高専も、やっと新聞なんかでも取り上げてもらって、認知はされてきていると思います。

代表幹事4名おりますけれども、考えて居ることは4人とも違います。ただ会員を多く集めてひとつのパワーにして、目的を達成しようと言う点では違いません。手段、手法、考え方は、4人とも个性的で、それぞれの考え方があります。ひとつの目的のためにやって行くつもりです。

先ほど高知高専の方が言われたような、水平的なネットワークが私の提唱するところですが、それもヒューマンネットワーク高専が社会的な存在に成りつつある現在では、協賛下さる企業の方々ともおつき合いして、全体的な運営を進めていかなければ成らないと考えます。

これから私たちは、種を蒔く役割を背負ったと思っています。ですから、これから参画してくる方々が育てて実りを収穫していくと言うような、もとを作ることだと思います。

私ももうじき50才になりますけれど、ひとつのことを始めた以上は、やり通していくこと、亡くなった山崎君の遺志もありますので、それを含めて継続的に協力して、推進していきたいと思っています。本日は有り難うございました。

**司会 田玉** 皆さん長時間お疲れさまでした。

残りは懇親会の方で盛り上げていただくという事で、これにて本日の議事は終了いたします。

石山代表幹事に閉会の挨拶をお願いします。

**石山代表幹事** 本日は台風のところを遠方よりご出席下さいまして、本当に心強く、嬉しく感謝申し上げます。

この試みは、いずれにしろ継続しなければいけないので、次回も参加いただくという事で、その間に会員を増やして、そうして同窓会もその中に是非とも加わって、今後、色々検討しながら、高専制度のために、それから卒業生、在校生のためにメリットのあるいろんな集会をしていきたいと考えて居りますので、皆様方のご協力をお願いします。

本日は有り難うございました。

## 感想文

# 第1回定時総会を終えて

宇部高専 井崎淳一郎

総会には、17校・36名の方々が全国から駆けつけられました。午後1時35分から6時まで長時間にも拘わらず、前向き・積極的な討議が行われました。また、その後の2時間半の懇親会も盛り上がり有意義な時を過ごしました。

代表幹事の立場からは、会則（ルール）が出来上がったことで、7月以降具体的な活動を開始出来ることを喜ばしく思います。総会議事に関する主な意見として、「ヒューマンネットワーク高専への自由な入会と退会を求めたい」「会員を増やす為には、入会費と年会費を減額する一方で同窓会（団体）の会費を増額して欲しい」との提案がなされました。

この点につきましては、「本会の趣旨は個人の積極的な参加と働きかけに基づくこと」また、「会員が何をメリットとし、これをどう享受するかによって、費用の多寡の捉え方は異なる」との発言もありました。

会員数の確保・増加と運営費用に見合う収入の獲得は、団体活動には必ず付いて回る課題ですが、皆さんの熱意と継続力に期待して、まずはネットワークの構築から始めていきたいと思います。

当方が提案を担った「異業種交流の運営及び産学共同研究について」は、時間が無い為討議を行うには至りませんでした。会員の思いは昨年10月の設立総会での分科会での討議から伝わってきます。幸いにも、関東地区の在住者は、早晩開設される東京事務所に集って、各自のアイデアを提示することになります。

同場所には、PC端末を配置してデータベースの構築作業や会員への情報提供サービスが順次進展することと思います。

活動を展開する切り口には枚挙に暇がありません。当方にとってのキーワードは、①全国津々浦々、②エンジニアリング集団、③団塊の世代です。

ヒューマンネットワーク高専は、20万人を越える方々に呼び掛けています。ルーツを同じくする個人がこれから展開する今後の活動が楽しみです。

# 第1回定時総会に出席して

函館高専 藤嶋俊哉

台風7号が九州に上陸したとの報道を聞き、四国・九州の出席予定の方々が、無事に上京出来るか、心配致しておりましたが、新幹線の1番列車又は、航空機の1番機と早朝に出発なさり、予定者全員、出席され、さらに出席申し込みをなさっていなかった方4名を迎え総会が開催され、HNKの前途多難の感を抱いていた気持ちが和らぎほっとしたしだいです。

長野高専の白倉氏の講演を聞きながら、函館高専の仮校舎での授業のスタート、旧国鉄の施設であった温泉付きの巴寮での寮生活を思い、入学してすぐに始まった専門学科に戸惑いながら取り組んだ日々、先生・職員・学生が一丸となりクラブを創り、中庭にテニスコートを造り、毎日皆で、ローラをかけたことなど、頭の中で、鮮明にプレイバックされました。さらに、好きなクラシックのLPレコードを買うために始めた、家庭教師のアルバイト、そして恋。

高専の5年間とは、15才から20才までの少年が青年へ成長する過程で、受験戦争に巻き込まれず、技術者になるための勉学・スポーツによる精神、肉体の研鑽・趣味を通しての情緒の高揚・遊びによる自由な心、と青春を真から謳歌したことに尽きます。

これらの経験が1つのパワーとなり、社会に出て、全く未知の世界（先輩が1人もいない）におかれても力強く生き抜く事が出来たものと思います。

総会出席者の大多数の方も程度こそ違え、同じ思いにかられたことと思います。

各高専の同窓会運営の現状報告を聞き、函館は恵まれている方で、皆さん、大変なご苦勞をなさっていることがよく理解できたのと、だからこそ皆、何かを求めてここに集ってきたのだなと感じ、ヒューマンネットワーク高専の意義とその方向性が、はっきりと見えてきたように思われます。

高専を卒業してから早30年を経て、自分が今までどう生きてきたか、省みるとともに、これからの人生をどう生き抜くかを考えた時、やはり、自分が社会に貢献できることは何かと考えます。

残念ながら今の私には、先進国民のような真のボランティア精神は持てません。

しかしながら、母校の為、自分の後輩の為だけではなく、私を育ててくれた、高専全体に対し、私のできることで、自分も高め、高専全体をたかめること、お手伝いをする思いにかられています。

高専卒業生（25万人）がそれぞれ『個』の確立を目指し、そして『個』が自立し、それから初めて『個』どうしによる『相互依存』が成り立ち、社会に対して有意義な大きな力となっていくことを確信します。

第1回定時総会は、『個』の高専パワーが、いよいよ相乗効果を求めて集い出し、全国62校の高専が1つの大きな高専パワーを創造するスタートと思えました。

和歌山工業高等専門学校環境都市工学科 中本純次

これは、6/28にも申し上げた事では有りますが、この集会の開催が主に長野高専卒業生の方々の努力によってなされた事に先ず敬意と感謝の言葉を捧げたいと思います。

当日、東京近辺に在住する人達が参加するであろうことは予想していましたが、富山、長野、豊田、米子、高知、有明、北九州、大分、和歌山（私）という遠方からも同窓会の代表者が参加（委任状参加という形で秋田、阿南、新居浜）されていたことは、私にとりましては大変嬉しい事でした。

全国高専同窓会連絡協議会を結成して、高専の将来に向かって我々高専卒業生が声を大にして叫ぼうではないかとの提案は私を勇気づけてくれましたし、皆さん方の発言の中にも、我々和歌山高専だけではなく他高専についても今を苦しみ、将来を憂えていることがひしひしと感じられ、力を合わせて高専卒業生の地位を改善していく必要性を痛感した次第です。

私が今必要性を感じていることとしては、各高専同窓会名簿の交換、あるいは全国高専卒業生名簿の作成、あるいは何らかの形でアクセスする事により自分の活動範囲（地域、分野）の高専卒業生の所在を知る事が出来るようなデータベース等の作成であります。これらのことも含めて是非石山さん達にリードして頂きたいと思います。私どもとしてはそういった全国的な動きを期待しながら、取りあえずは近畿地区（しかも土木関係のつながり）を目標に少し動き始める準備をしたいと考えております。

ヒューマンネットワーク高専の個人的なつながりと全国高専同窓会連絡協議会の組織的なつながりが縦系横系となってしっかりした全国高専卒業生の関係を構築していくことが出来ることを切に期待するものです。

宇部高専 渡部 正義

前略、先日は有意義な機会を作って頂き大変ありがとうございました。

会議に参加してみて次の3点がメインテーマであったと考えますので私なりに意見をまとめてみました。

1) 既存の同窓会との関係

ヒューマンネットワーク高専と既存同窓会とは協力していくべきだと思います。特に既存同窓会ではできないあるいはやりにくいことがヒューマンネットワーク高専では比較的簡単にできると思われますので、会員の重複所属を奨励するべきです。ヒューマンネットワーク高専は個人加入を前提とするべきです。データベースとして考えても当初、管理できるのは3000-6000名程度ではないでしょうか。300,000人のデータベースでは無駄が多すぎます。入りたい人だけが加入し積極時に関わっていくそういう会を目指すべきで、その意味で10,000円の入会金および6,000円の年会費は適当だと思います。会員が当初（その価値が広く認知されるまで）比較的高年齢者に偏ることも致し方ないと考えます。

## 2) ヒューマンネットワーク高専の行う事業について

既存の同窓会でやれることはそちらにまかせて、やれないことを行うべきです。例えば持株会社の経営、異業種交流、新規事業の設立、経営コンサルティング活動等です。

また、まだいろいろあるはずですが当初から多くの事業を展開することは無理でしょう。

将来の発展に備えて会の規定、事業計画等はできるだけ融通の利くゆるやかなものにしておくべきだと思います。できれば重要な事業計画の承認にも3/4ではなく1/2以上の多数で決定できるとよいと思います。

## 3) 高専の地位(?)について

「高専は短大より優れているので新聞等でも短大の上にかかれるよう努力するべきではないか」という意見がありましたが、短大卒の方の気持ちを考えると賛成できません。そのような努力をするよりも我々の創造力と団結を示す上記2)のような事業を一つでも多く成功させることに努力を傾注するべきです。高専の目指す一貫教育にはその有意義性がますます多くの人に認められて来ており、短大の存在意義はだんだん少なくなって来ていると思います。我々がことさらそうした努力をしなくても時代が自然にそうしてくれるでしょう。

この会が少数精鋭で活力ある団体となるために協力したいと思います。

早々

都城高専 尾上良明

1 回定時総会に初めて本校よりの依頼で同窓会関係者という消極的立場で出席致しました。このときは“ヒューマンネットワーク高専”についての予備知識は全くありませんでした。

総会後に用意された懇親会で初めて胸襟を開いて色々な方々と親しくお話することが出来ました。妙なもので、初めてお会いするというのにどなたも自然と旧知の間柄のようななごやかさでありました。

また長野四期の横澤さんや内藤さんと都城三期である私は話してみればやっぱり“おなじ”同級生。やはり、これは高専という特殊な？境遇の中でおおらかに育ったもの同士といいますか、土壌を同じくする者同士分かち合えるものがあったのでしょうか。

同窓会を除き“高専”という言葉が社会的に風化しつつあるかのように感じられていた矢先、どっこい高専パワーは生きていたのです。歩む道は違いこそすれ自分のアイデンティティは“ここ”にあったのだと顔をひっぱたかれた思いでした。

まさか、全国高専の卒業生がそれぞれ違う道を歩みながらこうして一堂に会するとは想像すらしなかったことでした。しかし一方では企業を離れ、数年が過ぎた頃やはり技術系の学校出身では学校や就職した企業の枠内からはみ出た人脈を持つことは並大抵のことではないなあと感じていました。

一步企業を離れば“高専”という言葉の響きのなんと虚しいものか、ここはひとつ「高専生のその後」というドキュメンタリー形式の番組を企画しテレビ局に売り込み、全国高専卒業生の企業人として行方、評価あるいは高専制度の検証を行いたいものだ、と友人に語っていたこともありました。その友人も、この“高専”というキーワードでくくるアイデアに虚しいものを感じていたように思います。

振り返れば、学生時代は全国的に学園闘争のまっただ中。当時学生会執行部として、学内の許可制度について校長以下、教授団と協議を繰り返していましたが、この時、他高専との連携、連絡をとろうにもこれは（ナント！）まかりならぬ事でした。あってはならぬ事だったのです。他校との接点といえば私事ではラグビーの対抗試合のみで、これにも文化的といいますか人的交流など全くなかったというのが実感です。

当時はネットワークを創ろうなどのアイデアが出てこよう筈もない、これは高専制度がまだ揺籃期だったからかも知れません。

しかし幸いにも連携については、先日の関東地区幹事会に出席した折り、旭川一期の中尾さんのお話から、函館との交流試合“旭函戦”なるものをお互いの街を舞台に交互に繰り広げていたのが後の全国大会へと展開されていった事を聞き及ぶにつれ原点はここにあるのかと心丈夫に思いました。

先の懇親会の後、もっとこの組織を知りたくて事務局の宮下さん他都内宿泊予定の10名ほどで二、三次会へと流れ、今回の事業計画を提案された代表幹事の函館の藤嶋さんや高専制度と同窓会について熱き思いを語られた富山の石山さんに身近にお話をうかがう機会を得ました。

鑑みるに私はこう捉えています。ヒューマンネットワーク高専の基本は個々の人材のネットワークとその支援・育成であり、学校・同窓会はその人材の提供となる母体、すなわち“苗床”ではないかと。そしてその“苗床”をしっかりと育てこれらを有機的に結びつけ、人的、財的支援を行うのがヒューマンネットワーク高専の役目であり、それがひいては高専制度の改革や発

展に寄与するであろうと。

おっ、いい言葉が浮かんできました。もちろん“苗”をしっかりと育て実りあるものにするためには地球にやさしい“有機栽培”方式が前提です。

さて、9月の当関東地区同窓会にヒューマンネットワーク高専のアピールをしていただこうと藤嶋さんにお願いましたところ、快諾を得ました。私どもの同窓会会員がヒューマンネットワーク高専と関わり、個々の発展のために役に立ててもらえるならば同窓会を預かる者のひとりとしてこのうえない喜びです。

以上、定時総会からひと月も経たぬというのにすっかり代表幹事の井崎さんや藤嶋さんに感化されちまっております。

ともあれヒューマンネットワーク高専は始動しました。

都内の一等地にささやかながらすでに事務所が開かれました。会員であれば誰でも利用できる体制になりつつあります。近い将来ここからすばらしい技術や人材が育つためのサロンとしても活用されることでしょう。

流れは速い！（水面下では、私の知らぬ間に用意周到に事は進んでいるようです）幸いにも、各企業で専門職として技術力を培ってこられた方あるいは個人レベルで事業を立ちあげた経験をお持ちの方々、カリキュラムには無かったはずの経営面でのプロなど会員の多士済済ぶりは心強い限りです。そして自前の技術支援や事業化など唱えながらも閉鎖的でなく外部協賛企業との連携およびノウハウなど積極的に吸収してこそ発展ありとも唱えられております。

これらの土壌を整えたのはやっぱり開校当時にグラウンド整備にローラー掛けで汗を流した先輩方でした。発起人及び事務局の方々のこれまでの労苦に感謝。

新居浜高専 成岡峯男

ヒューマンネットワーク高専が日本の危機を救える程の力として、社会に貢献出来るものと期待したく、参加した次第です。大部分の活動は、今後、何年もかかって漸く、見栄えの良いものになっていくと思います。何らかの行動は、言論を越えると思います。そして、学習もして行くものでしょう。何か、よくは分からない夢みたいなもの、あるいは、社会に無くてはならないものが、伝統として伝えられる縁となればと希望します。

## 高専卒業生から見た高専制度

富山高専 機械工学科 3回卒 石山彰雄

昭和46年に高専を卒業した我々富山高専3回生は、先輩である1、2回生の超優秀ぶりに就職先ではまさに「金の卵」で地元企業は無視し、都会の超一流企業へと就職した。

当時、発足したばかりの高専は県下及び近隣の中学校からトップクラスの生徒が多数受験し、競争倍率は20倍近いものとなっていた。当然に、優秀な学生が集い、学生もパイオニア精神を発揮して、低学年時より大学の教材、参考図書を当り前のように授業に使い、難解ながらも、真剣に取り組んでいった。

今、思えば難しい事の方が多かったようであるが、後で判ったということも多々あったように思う。

学校の教育というのは、当然に基本原則なり、定義なりを教えるところであるが、事実上、学生は社会に出て本当に必要な基本となるものは、何かということが判らず、大事なところを見落して枝葉のところだけ記憶しているということも往々にしてありがちであるので、学校では社会に出て必要と思われる分野は、繰り返し催眠療法のようにカリキュラムを組んでゆくということが学生の實力を向上させる一つであろうと思われる。

話がそれだが、その後、高専受験者は、以前の半分ぐらいに減ったが、腕だめし組が多く、実際に入学しない生徒が多かったため、高専としても、本当に入学したい生徒のために、中学校へ腕だめし受験をしないよう申し入れをした。その結果、当然に受験者数は、大幅に激減し、倍率も1.5倍から2倍程度となり、受験者の学力も大幅にダウンすることとなった。

これらの反省から高専自身も中学校へのP.R.を開始し、多くの学力ある生徒を集めることに努力し始めた。

しかし、時すでに遅しで、今や高学歴社会のなかで、袋小路の高専制度に魅力はなくなっていた。

そこで、大学への編入、そして、長岡・豊橋の技術科学大学を創設しだした。

大学への編入もいろんな角度から問題が発生した。その顕著な表れは編入を認めない大学、更に2年次なら受け入れようという大学。

これらのことはまるで高専制度を理解してない、理解しようとしないとしか我々の目に写らず、大変がっかりした。

技術科学大学の創設も同様である。

高専卒業生が、又、大学へ入学して、いままで学んできた専門課程を同様に又、学べとでも言うのであろうか。

高専卒業生のための学校を創設したというのであれば、大学院でなければおかしい。

当初の構想は、大学院構想であったはずである。それが又、多分、数の力で消滅したのであろうか。

少なくとも高専の専門課程は、大学と同様（以前はそれ以上）のものをカリキュラム化しているはずである。

次の大きな変革は、専攻科の設置であろう。これによって高専卒業生の大学院への入学は、一応その体裁を整えたこととなる。

高専卒業生が、大学3年次に入学して、何の意味があるのだろうか。年齢的には、たとえそうであっても5年間の一貫という観点が欠落していると思えない。

いまや、中・高校一貫の6年教育、そして飛び級も認められようとしている時代である。高専もいっそのこと6年一貫で、前半3年、後半3年で終了し完成教育にするか、若しくは、更に研究したい学生には、大学院への道を開く体制を考慮したらどうだろう。

その大学院も既存の大学院を利用することも可能であるが、高専を6・3・3・4制とは別の複線型教育体系と受けとめるのであれば、高専を卒業後、元の6・3・3・4制に復帰するのでなく、独自の大学院制度の創設を考えるべきであろう。その方が、高専制度の独自性が発揮できるだろうし、最後まで高専という学歴のなかでの社会的評価としてハッキリするのではなかろうか。

これらの制度改革ができれば、素晴らしい変革となることは、明らかであるが、いずれにしても、いかにして優秀な生徒を高専に入学させることができるかによって、高専の今後の方向づけが決定されよう。

例えば、「富山工業高等専門学校」を見て、「富山工業高等学校」若しくは「北陸工業専門学校（略して北陸工専）」と、どこがどう相違するかなどということは中学生には理解出来ず、ましてやその保護者ですら、もっと理解する状況にはないであろう。

社会的な評価も、実力があるにも拘らず、求人広告などを見ても、大学卒・短大卒・高専卒・高校卒の序列で広告掲載がされる。

そして、初任給の記載の仕方も、

大学卒・・・・・・・・・・〇〇万円

短大・高専卒　・・〇〇万円

高校卒・・・・・・・・・・〇〇万円

などの書き方でしかない。

明らかに高専制度が理解されていないかがわかるというものである。

ハッキリ言えば我々は、大学と同程度の学問をしているのであり、短大以下に並べられては、決して黙っておれないのである。

しかし、掲載する方にしても、無理からぬところがあるであろう、何故なら少なくとも、短大は短期であろうと名称は大学であり、高等専門学校は、高専でしかないというイメージがある。このことを真剣に受けとめ打破することが高専の将来に関わる重要な問題と考える。

単純明快に「専科大学」としてしまった方が、明らかにその相違が、誰に説明されるまでもなく理解できるであろう。

中学生の志望動機は、そんなに複雑なものでなく、ハッキリ区別するべきである。

専科大学への名称変更は、国専協はじめいろんな所で論議されながら日の目を見ないのは、声が小さいからであろう。中教審などの教育関係で高専を理解している人達が、どれだけいるか考えれば明らかであり、そういう観点から、高専卒業生はいろんな意味において高専制度に関する意見発表をいろんな場所でしなければならぬし、それが高専卒業生に与えられた使命であろうと理解する。

先般、発足した「ヒューマンネットワーク高専」は、その一步を踏み出すためのネットワーク作りと考え活動してゆきたい。

更には、全国高専の同窓会連絡協議会を発足させ、定例的に活動しながら、現在の高専制度に関する意見を貴学会は勿論、最終的には、学校教育法の改正を狙いとして、長期的に、そしてエネルギーに行動したいものである。

## 編集後記

「赤とんぼ」創刊号、半年掛かりで900部を全国に届けることができました。全国の同窓会長がそれを読まれて、第1回定時総会に半数近く同窓会関係者にお集まりいただきました。

「赤とんぼ」の功績大です。ネーミングもよろしいようで、中身に草創の意気込みが込められているのでしょうか。

今回は同窓会特集です。全員の発言を載せようとした為、厚くなってしまうしました。熱き思いのこもった「赤とんぼ」をお届けできること、編集のよろこびです。

本誌が、インターネットと相応呼して、同窓会や高専出身者の拠り所になればと考えています。

次号は個人の意見特集を組みたいと考えていますので、大勢の皆さまの意見をお待ちしています。 (宮下記)

「ヒューマンネットワーク高専」  
赤 と ん ぼ

〈2号〉1997年9月5日発行

発行／ヒューマン・ネットワーク高専  
〒386-04 長野県小県郡丸子町腰越2737番地286  
TEL 0268-42-5620 FAX 0268-42-6850  
発行人／井崎 淳一郎  
編集人／「赤とんぼ」編集室 宮下和美  
制作／(株)上田ワープロ  
印刷／PO印刷(株)  
定価 1,000円(税込)

赤とんぼ 里に降りてきて赤くなる赤とんぼ。山では個々に活動していた個体も、実りとともに里近くにまできて、小麦色のじゅうたんの上を群舞するようになります。  
この指と～まれ!





ヒューマンネットワーク高専